

取扱説明書 Ver 1.00

TR-001

フィールドトレーラー



お客様へ この取扱説明書はトレーラーの車検証とともに大切に保管してください。

この度はスノーピーク製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この製品はルーフトップテントを搭載した被けん引車両です。本製品は取り扱いを誤ると大変危険な要素を持っており、事前にトレーラーに関する知識を得る必要があります。誤った使用による大きな事故を防ぐため、本取扱説明書をよく読み、十分に理解した上でご使用いただくようお願いいたします。説明内容が理解できない点および製品に不具合が確認された際には直ちに使用を中止し弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

目次

基礎知識.....	2	◆ メンテナンス方法	
セット内容.....	3	トレーラー.....	40
各部の名称.....	4	テント.....	41
安全上の注意事項.....	6	品質保証について.....	42
◆ 使用方法		修理について.....	42
ジャッキの上下の操作方法.....	9	チェックリスト.....	43
【1】トレーラーとけん引車両の連結方法（走行前）.....	9	点検整備基準.....	45
【2】トレーラーの設置（走行後）.....	15	お客様定期点検表.....	46
【3】テントベースの設営方法.....	18	スベック.....	47
【4】テントの設営方法.....	25		
【5】シールドルーフの設営方法.....	28		
【6】三又ロープの取付.....	33		
【7】インナーマットの設置.....	33		
【8】撤収方法.....	34		

基礎知識

けん引免許不要

フィールドトレーラーは普通自動車免許でけん引することができます。けん引にあたって免許を取得する必要はありません。

けん引車両の車両重量は1,460kg以上が目安

けん引には車両重量1,460kg以上を目安とした普通自動車が必要です。軽自動車はけん引することができません。

けん引車両はけん引のために十分な強度およびブレーキ能力を有している必要があります。

※その他にもけん引にあたっての条件がございます。詳細については弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

ヒッチメンバー取付

けん引には2インチのヒッチボールと、アメリカタイプ丸型7ピンの電極ソケット(※2)を備えたヒッチメンバーが必要です。

※すでに車両にヒッチメンバーをお取り付け済みの場合は、ヒッチボールのサイズ確認と適合確認が必要です。詳細については弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

※2：公道を走るには、ウインカーやブレーキランプ、テールランプなどの灯火類の点灯が必要です。後述の「トレーラーとけん引車両の連結方法(走行前)」に従って、フィールドトレーラーの電極プラグをヒッチメンバーの電極ソケットに接続してください。

けん引車両の地方運輸局への登録

けん引車両は車庫証明および地方運輸局への登録が必要となり、ナンバープレートを取り付けて走行する必要があります。

※トレーラーをけん引して公道を走行できるけん引車両は、トレーラーの車検証に記載された車両のみとなります。けん引車両を替える場合は、トレーラーの車検証のけん引車両の変更、または追加を行ってください。また、適合するヒッチメンバーの取り付けが必要です。

ETCのセットアップについて

フィールドトレーラーをけん引した状態で高速道路や有料道路のETCを利用する際は、ETCの再セットアップが必要です。

注意 セットアップ申込書の「けん引装置の有」欄にチェックを入れてください。再セットアップを行わずにけん引した場合には、開閉バーが開かず高速道路や有料道路を走行することができません。

※ご登録には諸費用が別途必要です。

※けん引時は通常の通行料金とは異なりますのでご注意ください。

法定最高速度

走行時の法定最高速度は、一般道では60km/h、高速道路では80km/hに制限されています。

※公道を走行する際は、その道の法定速度を遵守してください。

車検について

トレーラーの初回車検は登録から2年後、その後は1年に1回の車検が必要となります。

警告 車検のないトレーラーを一般公道で走行することは処罰の対象となるだけでなく大変危険です。必ず車検を受けてからご使用ください。

車庫証明について

駐車場はトレーラーのスペースとして長さ5.0m×幅2.5mの広さが必要です。

法律に従い車庫証明の手続きを行ってください。

自賠責保険について

自賠責保険の加入は必須となります。保険の詳細については製造元からご案内させていただきます。

任意自動車保険

連結時は、けん引車両の保険が適用される場合が多いですが、各種保険会社によって対応が異なる場合もありますので、けん引車両で加入した保険会社にお問い合わせください。

けん引車両またはトレーラーの車検証に記載されている内容以外でけん引した場合は、けん引車両の保険の適用が受けられないこともありますので、絶対に行わないでください。

点検について

点検整備は使用者の義務です。車の使用状況に応じて適切に実施し、継続的に車両の安全性を確保する必要があります。

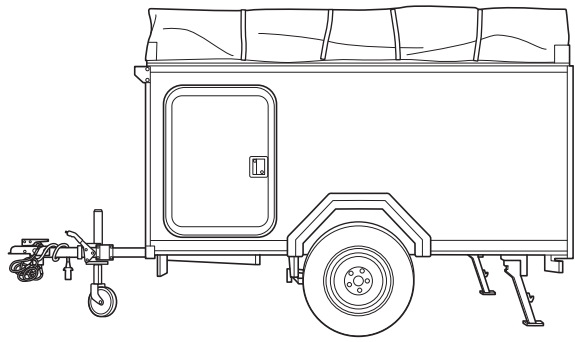
・日常点検

走行前には必ず点検整備を実施してください。異常個所を発見したら速やかに整備を行う必要があります。また、使用状況に応じて判断し、メンテナンスを実施してください。(走行前チェックリスト:P.43、メンテナンス方法:P.40)

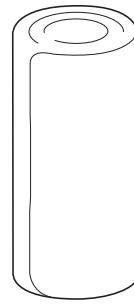
・定期点検

6か月ごとに認証工場または指定工場にて法定点検(定期点検)を実施してください。実施されましたら、記録簿を受け取りお客様で大切に保管してください。また、6か月ごとに取扱説明書に従ってお客様ご自身の点検も実施してください。(お客様定期点検表:P.46)

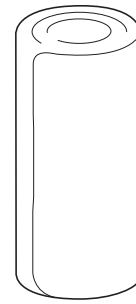
セット内容 ※ご使用前にセット内容、付属品が全て揃っているかを確認してください。



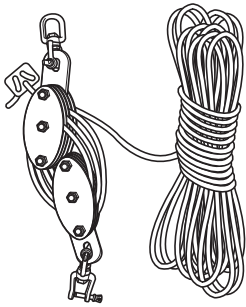
トレーラー本体



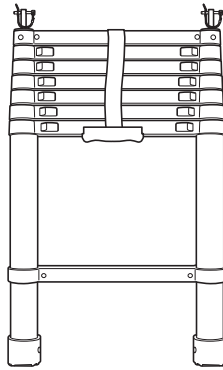
テント本体



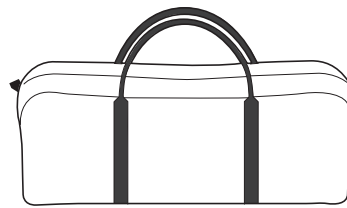
シールドロール



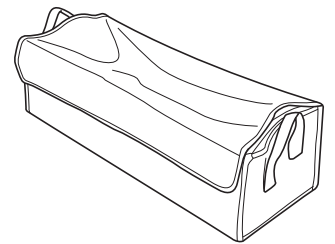
滑車付きロープ



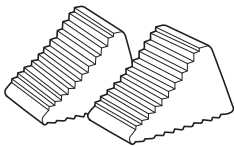
はしご (×2)



テントキャリーバッグ



シューズケース (×2)



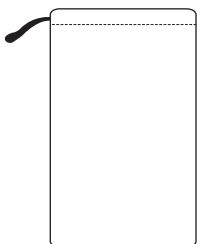
輪留め (×2)



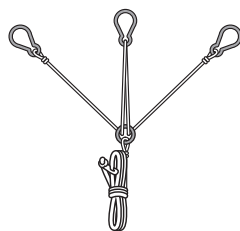
バイザーフレーム



インナーマット (×2)



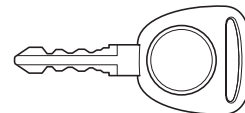
フレームケース



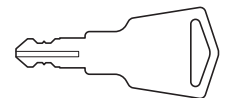
三叉ロープ (×2)



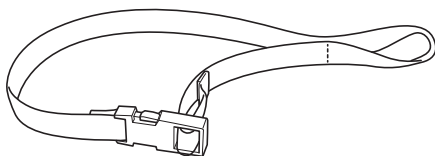
柱固定ボルト



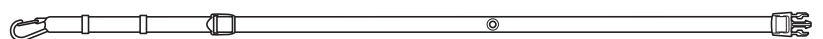
サイドドアの鍵 (×2)



ハッチの鍵 (×2)



はしご固定ベルト (×2)



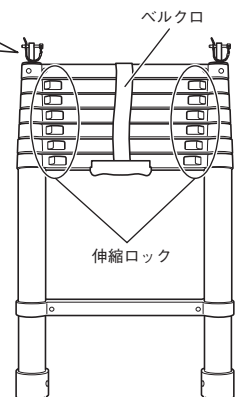
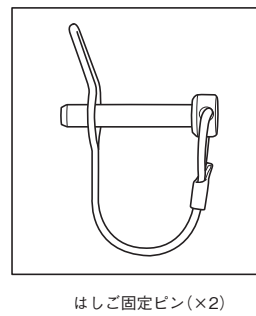
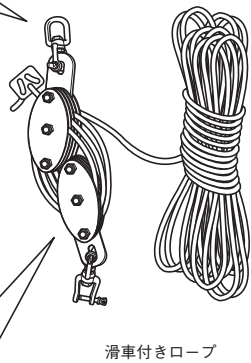
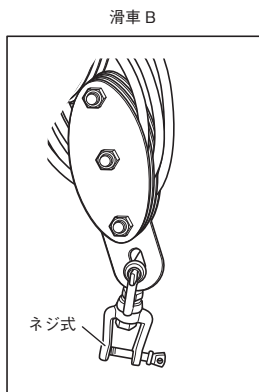
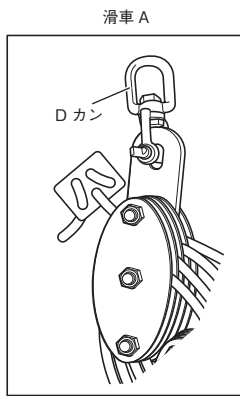
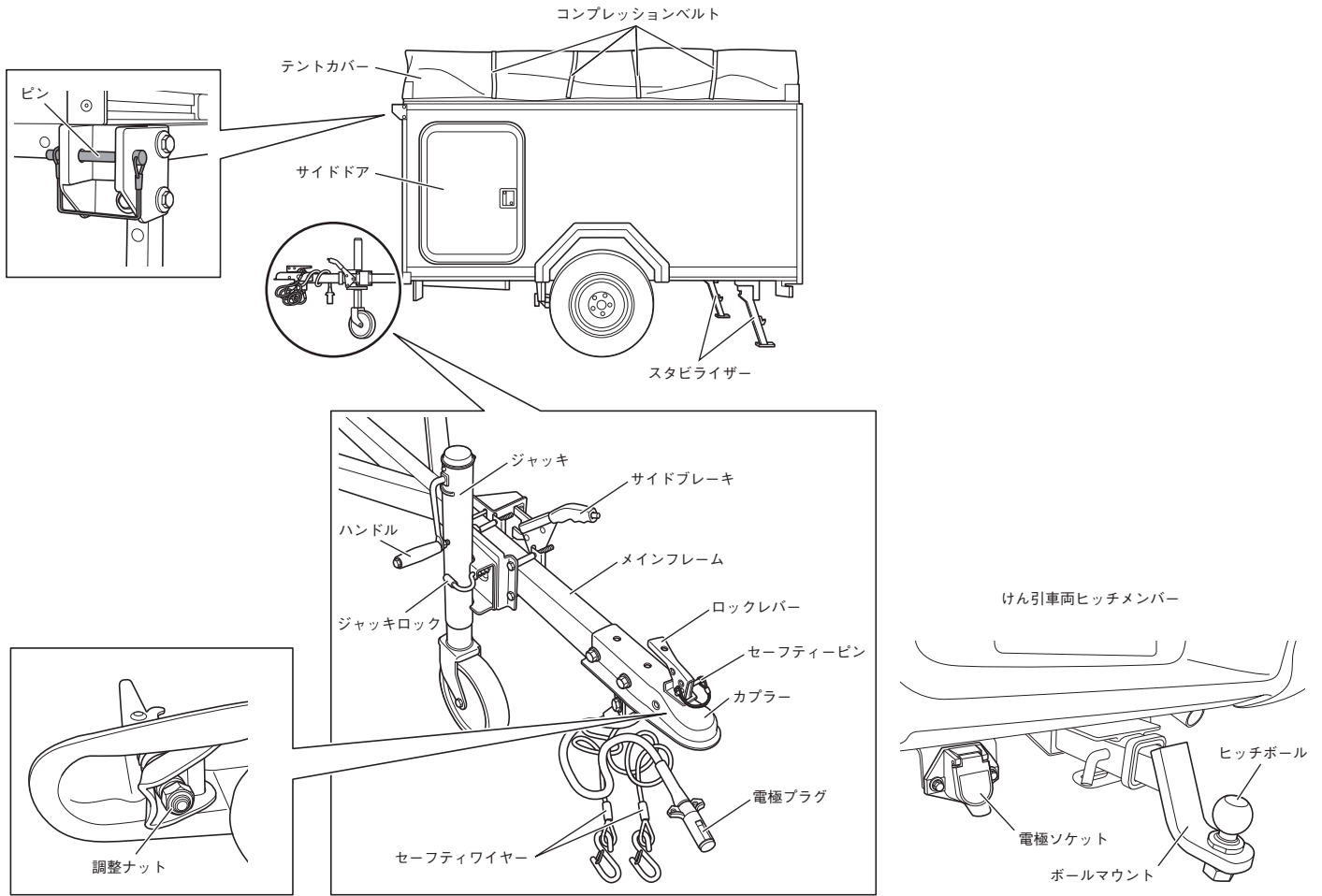
グロメット付きベルト (×2)

本製品にはペグが付属されておりません。
お手持ちの鍛造ペグを別途ご用意ください。

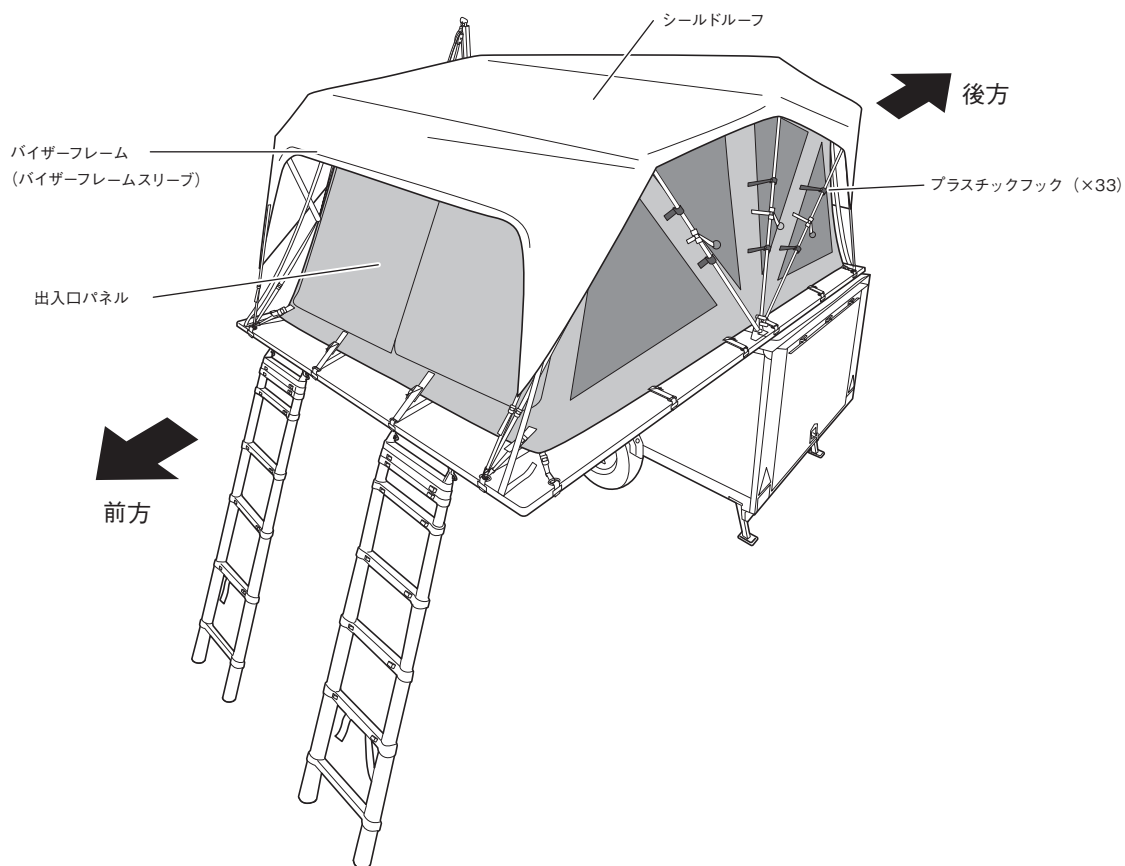
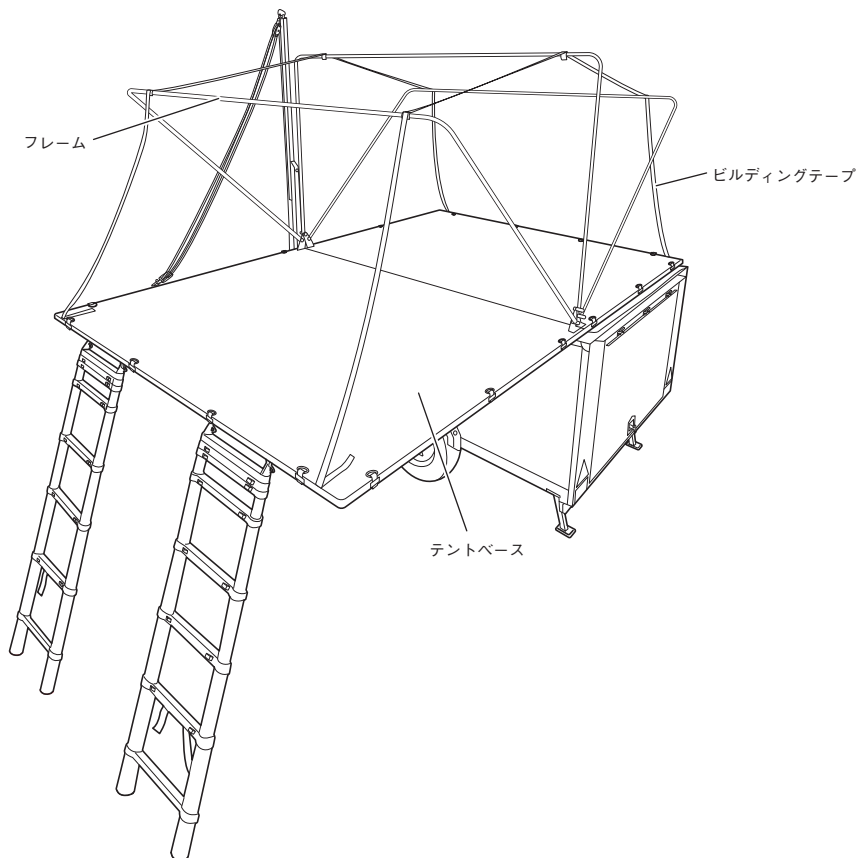
【鍛造ペグの条件】
40cm×4本以上をご用意ください。

各部の名称

■ トレーラー



■ テント



安全上の注意事項 ご使用の前によく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

免責事項

本製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし間違った使い方をするとなんらかの重大な事故や、車両や製品の破損につながる恐れがあり大変危険です。予期せぬ事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。また、記載事項を守らなかったことが原因で発生した事故につきましては、責任を負いかねます。

●安全のため注意事項を守る

「安全上の注意事項」および取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

●定期的に点検・メンテナンスをする

走行前には必ず走行前点検をしてください。また長距離走行時は100km程度を目安に同様の走行前チェックリストで点検を行ってください。メンテナンスも適宜実施してください。(走行前チェックリスト:P.43、メンテナンス方法:P.40)

●変形または破損したら使わない

本製品が変形または破損、欠損していることに気が付いたら、すぐに使用を中止し、弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

●万一、異常を発見した場合

- ①故障や破損内容を確認してください。
- ②弊社ユーザーサービスまでご連絡ください。

●走行中のトラブルについて

道路交通法に定められた適切な措置を行ってください。

●製品の改造を行わない

改造して使用するのは大変危険です。

- ・指定されたけん引車両重量や適合するヒッチメンバー以外での使用。
- ・指定された組み合わせ以外で起きた事故やトラブル。
- ・他社部品の故障や他社部品が原因で起きた事故。

●本製品の運搬・組み立てに伴う、周囲の器物損害や自然災害、第三者による損害は責任を負いかねます。

●弊社は、予告なく製品の仕様を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

トレーラー

⚠ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止し、安全な場所に避難してください。万一使用中に悪天候にみまわれたり、強風時などにはペグ(別売り)やロープがしっかりとつながれているかなどを、時々点検してください。
- 取扱説明書に記載されている指示に従いご使用ください。本製品の不正確な連結や組み立て、使用は自動車事故・火災・爆発・ケガ等の危険があります。
- けん引車両からトレーラーを取り外して使用する際は2本のスタビライザーが地面にしっかりと着地していること、はしごが取扱説明書通り取り付けられているか確認してください。着地していない場合は、ジャッキ、スタビライザーの調整を再度行ってください。それでもできない場合は設置場所を変更してください。
- けん引車両とトレーラーの連結作業中やテントベースの開閉時等の設営中は子供やペットが近くにいないか、また近づかせないように注意してください。指挟みやその他の思わぬ事故を避けるため、厳重に監視が必要です。
- 電極プラグ部分を濡らさないでください。感電や故障の原因となります。
- 取扱説明書記載のチェックリストの確認、定期点検、メンテナンスは確実に実施してください。点検を怠ると思わぬ事故や故障の原因となります。
- 出発前の点検時に歪み、亀裂、ボルトのゆるみ、脱落、テントカバーやロープ、コンプレッションベルト等の劣化や欠落を発見した場合は直ちに使用を中止してください。
- 事故防止のために走行距離100kmを目安にけん引車両と連結部およびトレーラーの足回りのボルト、ナットのゆるみがないか点検してください。ゆるみ、ガタつきがある場合は締めなおしを行ってください。
- 本製品のタイヤや三又ロープ、滑車付きロープ等が消耗した場合は、速やかに交換してください。そのまま使用を続けると事故や故障の原因となります。交換の際には弊社ユーザーサービスまでご連絡ください。
- 本製品と併せてご使用になる各アイテムの取扱説明書を必ずお読みください。
- 分解や改造は絶対にしないでください。自動車事故等の重大な事故の原因となります。
- 車検のないトレーラーを一般公道で走行することは処罰の対象となるだけでなく大変危険です。必ず車検を受けてからご使用ください。
- 走行時に異音や異常を感じた場合は直ちに車両を安全な場所に停車し、故障・損傷の有無を確認してください。ご自身で対処できない場合はそのまま走行しないでください。
- トレーラー内にガス缶などの可燃物を入れないでください。

⚠ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- ご使用前に、本製品を点検し各部に異常がないことを確認してください。異常が発見された場合は、直ちに使用を中止し弊社ユーザーサービスにお問い合わせください。
- 公園や河川敷、キャンプ場といった公用地で設営の際は各自自治体や管理者に確認してください。
- 地権者(私有、公有の別なく)の許可がない場所で設営しないでください。
- 交通の妨げになる場所で設営しないでください。
- 傾斜地や不安定な場所での駐車、設営は避けてください。トレーラーが倒れるおそれがあります。駐車する際は、けん引車両のブレーキ、サイドブレーキ、トレーラーの輪留め、サイドブレーキを必ず使用して全体が動かないことを確認してください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な洪水や氾濫などのおそれのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。
- テントカバーやピン、ハッチ、サイドドアが確実に固定できているか確認してください。固定が不十分な場合、移動中に積載物が落下するおそれがあります。
- 積載物は滑り止めなどを敷き、移動中に積載物が動かないようにしてください。
- トレーラー内部に子どもやペットが入り込まないようにご注意ください。閉じ込められるおそれがあり、大変危険です。
- エンジンがかかっている状態で電極プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- ジャッキが完全に伸びきった状態もしくは完全に縮んだ状態で無理にハンドルを回すと故障の原因となります。
- ジャッキに負荷がかかっている時は折りたたまないでください。思わぬ事故の原因となります。
- 工具はボルトやナットに合ったサイズのものを使用してください。サイズの合わない工具を使用するとボルトやナットの破損だけでなく、締め付け不足の原因となります。
- 雪上や凍結した地面、ぬかるんでいる場所での設営はしないでください。トレーラーやけん引車両の転倒、スタック等の原因となります。P.43の設営不可リストをご参照ください。
- 設営時はケガに注意し、以下のことを守ってください。
 - ・作業用の手袋を着用してください。
 - ・手を連結部付近に置かないでください。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 停車する際には、坂道や不安定な地面での停車は注意してください。トレーラーが転倒する可能性があります。
- けん引車両にヒッチメンバーを取り付けると、車両後部と地面のクリアランスが少なくなりますので、勾配のついた出入口や車止め等に当たらないように注意してください。
- トレーラー内に荷物などを長期保管しないでください。内部は高温多湿の環境下になりますので、中に収納したものがサビたりカビが発生する可能性があります。
- 日差しによりトレーラーは低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。
- ハッチを上げて内部のモノを取り出したりする際に頭上にご注意ください。
- トレーラーの角や端部にぶつからないようにご注意ください。
- 設置場所に十分なスペースを確保してから設営してください。
- 積載物の積み込み、積み降ろしは必ず水平かつ平坦な場所で作業を行ってください。その際トレーラーのサイドブレーキと輪留めを必ず使用してください。

■ テント

⚠ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源は、絶対に使用しないでください。火気の使用は、火災のおそれがあり大変危険です。
- テントベースから落下すると、死亡または身体的傷害、重大な物的損害の原因となることがあります。特に昇り降り、テントベース上での作業を行う際は十分に注意してください。また、子どもやペットから目を離さないようにしてください。
- テントベース下では、指定外の燃焼器および焚き火はお控えください。火災のおそれがあります。
- 指定された燃焼器を使用する場合、熱源から周囲50cm以上、上方1.1m以上の距離をとり、テントベース下の地面が水平な場所で使用してください。
【指定燃焼器】
・3,000kcal以下の弊社製品
- はしごの立て掛け角度は、約75～85°にしてください。はしごを立てすぎると倒れ、ねかせすぎると滑りますので、転倒や転落の危険があります。
- 足元や周囲がはっきり見えない暗がりのなかで、はしごの昇り降りをする際は両手が使える状態でライトでよく足元を照らしてください。足を踏み外したり、周囲の危険な物に気付かないことが原因で、転倒や転落のおそれがあります。
- テントベースの片側に同時に3名以上乗らないでください。

⚠ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- ご使用の前に、本製品を点検し各部に異常がないことを確認してください。異常が発見された場合は、直ちに使用を中止し弊社ユーザーサービスにお問い合わせください。
- テントを設置する際は設営手順を厳守してください。不適切な設営は、テントの倒壊や事故の原因となります。
- テントベースの耐荷重は合計300kgです。テントベース片側で150kgまでとなります。体重と荷物の合計重量が耐荷重を超える場合は、使用しないでください。また分散荷重での耐荷重になりますので荷重が集中するような荷物、就寝のレイアウトはしないでください。
- テントベースやはしごにぶら下がったり、飛び跳ねたりしないでください。また、テントベースの上では静かに歩いてください。テントベースが破損し思わぬケガや事故のおそれがあります。
- テント内は高温になり、熱中症や脱水症状などの危険があります。細心の注意を払ってください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。火災や熱中症などの危険があります。
- テントベースの開閉部やはしごの伸縮部、各すきまに指を入れないでください。挟んでしまった場合、重大な身体的障害を引き起こすおそれがあります。
- はしごは取扱説明書指定の方法で取り付け、はしご固定ベルトを必ず使用してください。はしごが転倒するおそれがあります。身体のバランスを保ち転落等の事故に注意してください。
- はしごが安定しない場所には、設置しないでください。設置場所が設営不可リストに記載されている場所では、はしごが傾いて転倒や転落のおそれがあります。(P.43)
- はしごの使用時には転倒や転落のおそれがあります。はしご使用時は「はしごの確認事項」を確認してください。(P.24)
- はしごが変形した場合、直ちに使用を中止してください。変形した製品をご自身で修理して使用すると、容易に折れたり曲がったりして、重大な事故の原因になります。
- 下記の状態の方は、ご使用をおやめください。
 - ・酩酊状態の方
 - ・妊娠している方
 - ・体調がすぐれない方、めまいがする方

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

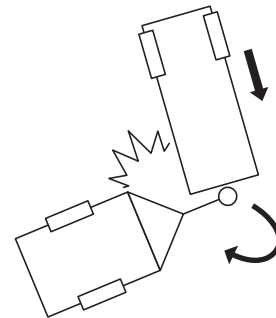
- テントの設営・撤収の滑車を使った開閉作業は、風の影響を受けぬように少しずつ動かして作業してください。事故に繋がるおそれがありますので滑車を取り扱う際は必ず周囲の安全を確認して作業してください。作業時は必ず作業用手袋を着用してください。
- 日差しによりテントの表面やテントベースは低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。
- 積雪している場所や降雪時は使用しないでください。万一、テント本体に雪が積もった場合はこまめに除雪してください。
- 本製品は常設用ではありません。テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 焚火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。設営・撤収の際には、周囲に火気がないことを確認してください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- テントは薄い生地を使用していますので、生地を引っ張りすぎると破損するおそれがあります。ご注意ください。
- ロープを正しく張ることにより風や雨に耐える強度を得ることができます。ご使用の際は取扱説明書に従い必ずすべてのロープを張ってください。
- はしご、ロープやベグ等にはご注意ください。足を引っ掛けて転倒し、思わぬ事故の原因となります。
- はしごは慎重に昇り降りし、はしごの途中から飛び降りたりしないでください。傷害事故のおそれがあります。降りるときは最下段のステップまで使用して慎重に降りてください。
- はしごを運搬する際は、はしごを締め付属のバルク口で固定してください。また、トレーラー内のはしご置きに差し込み固定してください。はしごが伸びて事故を起こすおそれがあります。

■ けん引走行時の注意

トレーラーは車両です。道路運送車両法、道路交通法等、道路運送車両の保安基準等の制限を受けますので、正しい知識を持ち厳守した上で走行してください。トレーラーけん引走行時は自動車単独での通常走行と比べ、より安全運転が必要となります。下記事項に注意して安全運転を心がけてください。

⚠ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- 走行中に急加速・急発進・急停車・急旋回など「急」がつく運転をしないでください。トレーラーが制御不能になり重大な事故の原因となります。非常に危険ですので、絶対に行わないでください。
 - 走行時には制限速度を守ってください。法定速度は一般道では最高60km/h、高速道路上では80km/h以下で走行してください。速度超過は重大な事故の原因となり危険です。特に長いカーブや曲がり角では十分に減速して走行してください。
 - けん引していると通常より加速がしづらくなっていますので、高速道路の合流等後続車の車間に余裕を持って運転してください。
 - 滑りやすい路面では十分な車間距離をとって走行してください。けん引車が坂道等でブレーキをかけたときにトレーラーだけスピンし、ジャックナイフ現象(※1)になる可能性があります。特に凍結路走行時は細心の注意を払ってください。
- ※1ジャックナイフ現象:トレーラーがけん引車両に対し「く」の字の状態で折れ曲がる現象。
- 冬季の走行(路面の凍結、わだち)には、細心の注意を払ってください。
 - スピードの出しすぎや突風、横風、橋の上、大型車両の追い越し、下り坂に注意してください。スネークキング現象(※2)が発生し、トレーラーが制御不能になり転覆のおそれがあります。
- ※2スネークキング現象:急なブレーキや加速で連結部が曲がったまま操縦不能になる現象。
- トレーラーをけん引する際は、起伏の激しい道路や舗装されていない道、ロードコンディションが優れない場合は必ず徐行してください。
 - 後退時の安全確認は十分に行ってください。通常よりも操作が難しいため、場合によっては誘導者の誘導に従い後退してください。
 - 右折時対向車にトレーラーが見えていないことがありますので余裕を持って右折してください。
 - 内輪差に十分注意し、バイクや自転車、歩行者等に細心の注意を払ってください。
 - タイヤがパンクした状態での走行はしないでください。走行中にパンクした場合は速度を落とし安全を確保できる場所へ移動し、道路交通法に定められた適切な措置を行ってください。
 - 車両事故等により、本製品が変形および損傷した場合は使用を中止し、速やかに修理または交換してください。そのまま使用を続けると重大な事故につながるおそれがあります。
 - トレーラーをけん引する際は、必ずセーフティピンとセーフティワイヤーを取り付けてください。トレーラーの脱落の原因となるばかりか重大な事故につながるおそれがあります。
 - ジャッキは道路けん引用には設計されていません。ジャッキを下げたまま運転しないでください。
 - けん引車両の車両重量が1,460kg以下の場合、本製品を取り付けて走行することができません。
 - 本製品の最大積載量は200kgです。荷物を積載する前に積載量を必ず確認してください。過積載での走行は処罰の対象となるだけでなく大変危険です。荷物を積載する際は過積載にならない様に注意してください。
 - けん引走行時は自動車単独に比べて制御能力が低下しますので、早めのブレーキを心がけてください。
 - 他の車をけん引するなどのトレーラーのけん引以外の負担がかかる行為はしないでください。
 - トレーラーに人やペットを乗せて走行しないでください。
 - トレーラーへの積載は、左右に偏らせずにバランスよく配置し、積載物の重心がタイヤの中心より少し前になるようにしてください。重心が偏った状態で走行すると、カーブや右左折、坂道走行時に横転する危険性があります。前に偏っている場合は、下り坂や急ブレーキをかけたとき、制動力を減退させるおそれがあります。後ろに偏っている場合は、ハンドル操作が不安定になったり、発進時や登板時、踏切通過時に頭が持ち上がり危険性があります。



⚠ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

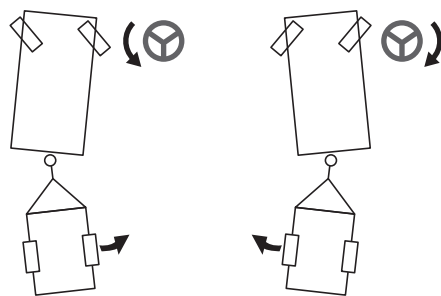
- カーブや曲がり角で、トレーラーの後部が車両や他の物体に接触する可能性があります。
- 坂道やカーブでは、絶対に追い越しをしないでください。車両を制御できなくなり、大きな事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 長時間トレーラーをけん引しているとけん引していることを忘れてしまう場合があります。よく認識して走行してください。
- トレーラーをけん引している車両は一般乗用車用の駐車場に駐車することができません。大型車用の駐車場をご利用ください。
- トレーラーをけん引する際は、登坂能力が低下しますので、登坂車線を走行する様に心がけてください。
- トレーラーをけん引する際は、全長が長くなっており、交差点の通過に時間がかかりますので、車間距離やタイミングに気を配った運転を心がけてください。
- 冬季はスタッドレスタイヤに交換していただき、細心の注意を払って走行してください。
- けん引すると、通常の使用より、けん引車両に負荷がかかります。けん引車両の通常定期点検は、より頻繁に点検を行うようにしてください。

■ 後退時のポイント

- 後退時、トレーラーはハンドルを切った方向と反対へ向きます。(図参照)
- 真っ直ぐ後退するときはトレーラーの向きを確認しハンドルを交互に切りながら後退すると、比較的真っ直ぐ後退することができます。
- 慣れるまでは許可された広い場所でゆっくり後退の練習を行い、感覚をつかんでください。
- トレーラーが思ったラインよりズレてしまった場合は、もう一度前進し車両とトレーラーを真っ直ぐの位置に戻してから切り替えし作業を行ってください。無理に後退するとジャックナイフ現象が発生し、トレーラーがけん引車に接触しますので注意してください。

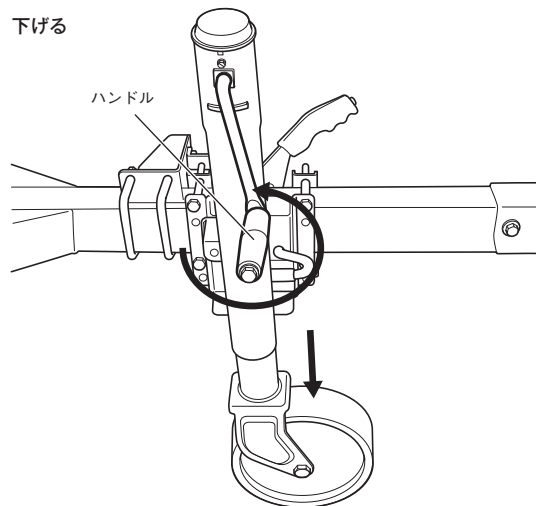
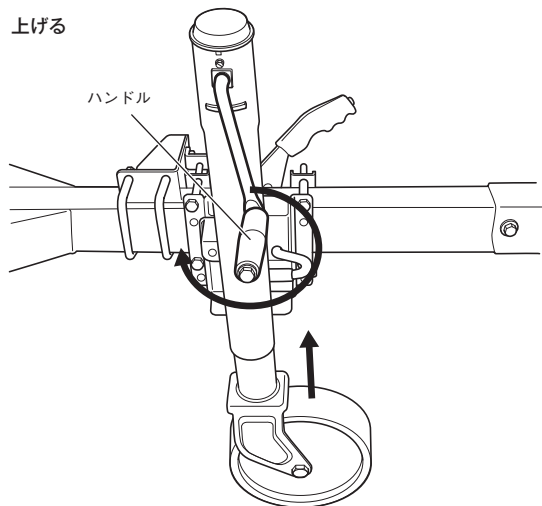


◆ 使用方法

注意 ・作業中は軍手などの作業用手袋を装着してください。
・大人2人以上で作業してください。

ジャッキの上下の操作方法

上げる トレーラージャッキをハンドルを時計回りに回す。
下げる トレーラージャッキをハンドルを反時計回りに回す。



【1】トレーラーとけん引車両の連結方法（走行前）

連結作業は傾斜がなく平坦な場所で慎重に確実に行ってください。サイドブレーキはトレーラーを移動させるときにのみサイドブレーキを解除し、停止しているときは常にサイドブレーキをかけるようにしてください。

危険 傾斜のある場所で連結作業を行うと、手を挟んだり体が押しつぶされるなどの重大な事故につながるおそれがあります。

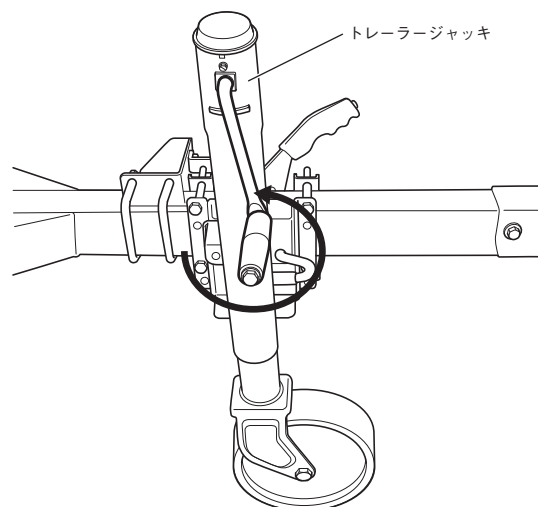
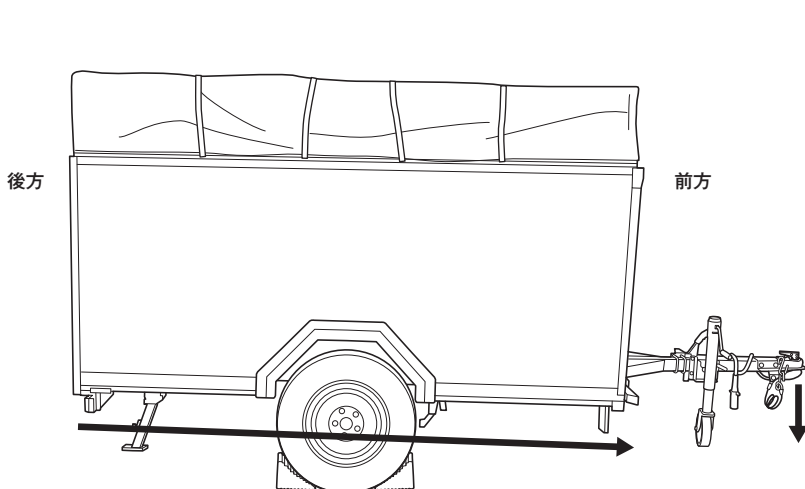
警告 サイドブレーキの引き忘れはトレーラーが動き出し、身体が挟まれるなどの重大な事故につながるおそれがあります。

① けん引車両をトレーラーに近づける

1名が誘導者となり、誘導者の指示に従い、後方を確認しながら、けん引車両をトレーラーに近づけます。

② ジャッキを下げる

トレーラージャッキを使用し、トレーラーをやや前傾させる。

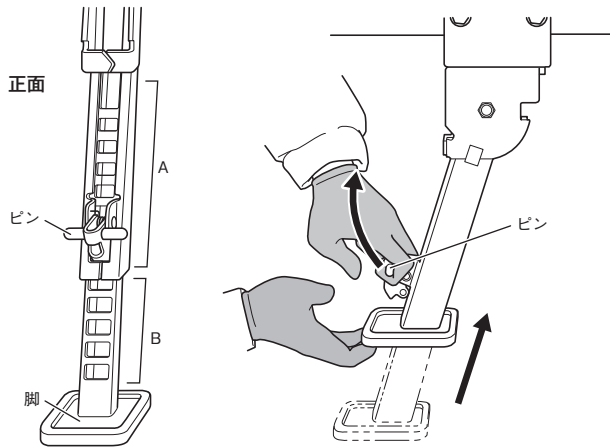
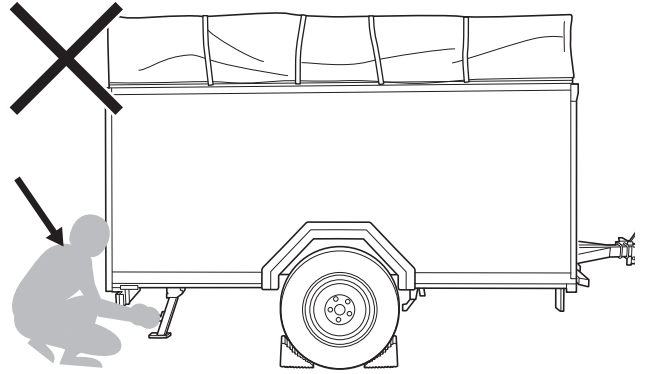
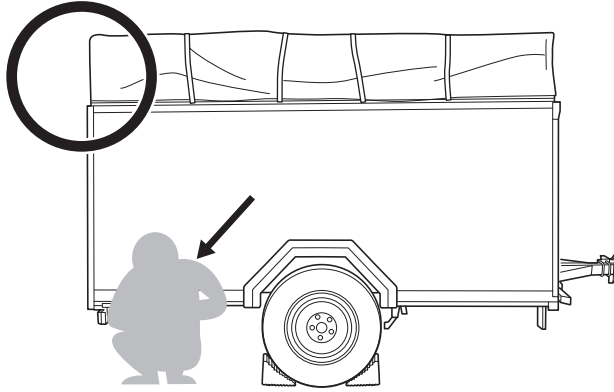


③ スタビライザーを折りたたむ

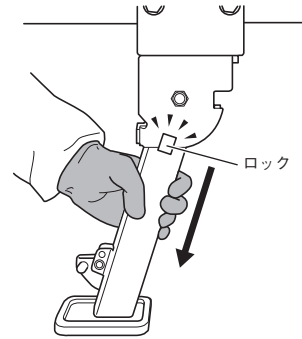
トレーラー後方のスタビライザー(×2)を折りたたみます。

注意 スタビライザーの操作はトレーラーの横から行ってください。後ろから回り込んで作業しないでください。
傾斜のある場所での作業や荷物の重心が後方に偏っていた場合、トレーラーが後退、後方へ転倒するおそれがあります。
後ろに回り込んで作業をした場合、手を挟んだり体が押しつぶされるなどの重大な事故につながるおそれがあります。

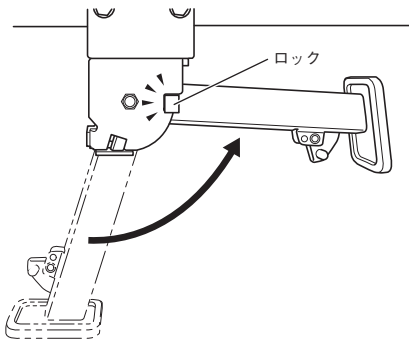
作業位置



①ピンを図のように引き、脚を持ち、Aの中にBが完全に隠れるまで持ち上げます。



②Aの部分を持ち下に引きロックを解除します。



③図のように折りたたみ、ロックがかかったことを確認します。

④ トレーラーを動かす

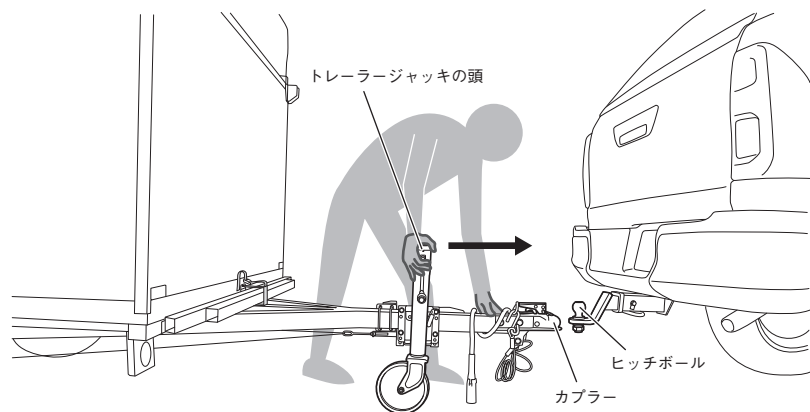
トレーラーをけん引車両に近づけ、連結するための準備をします。

危険 トレーラーを移動させる際は、メインフレームを持ち上げないでください。トレーラーがバランスを崩し後方に転倒するおそれがあります。

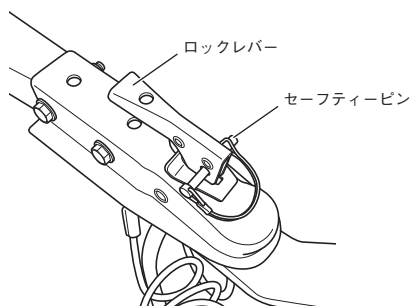
注意

- 周囲の状況を確認してから作業をしてください。人やものを巻き込むおそれがあります。
- サイドブレーキは片手操作で効果が発揮できるように設計されていますので、両手で力いっぱい引くような行為はおやめください。レバー破損の原因となります。

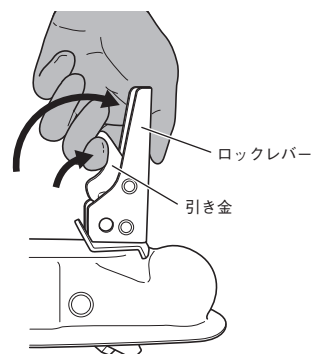
メモ 重い場合はもう一人がトレーラー側面から前へトレーラーを押しながら移動させてください。



① 輪留めを取り、サイドブレーキを下ろします。その後、トレーラーjackの頭をもち、トレーラーのカプラーとけん引車両のヒッチボールを近づけます。



② ロックレバーのセーフティーピンを抜きます。



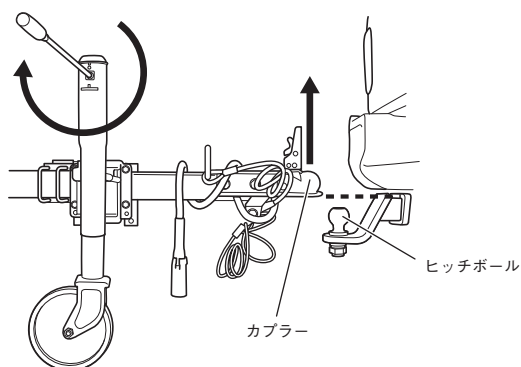
③ 引き金を引き、ロックレバーを上げます。

⑤ ヒッチボールの位置合わせ

① 横から見てカプラーの先端がヒッチボールより高くなるようにジャッキを使い、カプラーを上げます。

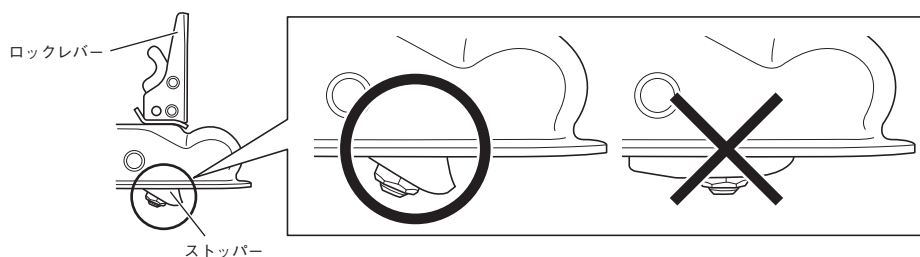
危険

- カプラーを必要以上に上げないでください。トレーラーがバランスを崩し後方に転倒するおそれがあります。
- 重大な事故の原因となるため、⑤「ヒッチボールの位置合わせ」から⑩「電極プラグを電極ソケットに接続」までの作業は1人で作業を途中で止めずに行ってください。作業を止めると作業忘れが発生しやすくなります。

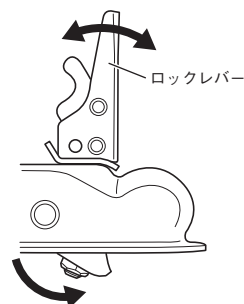


② カプラー内のストッパーの状態を確認してください。

NGの図のようになっていた場合、ロックレバーを前後に動かし、ストッパーが正しく出るように調整してください。

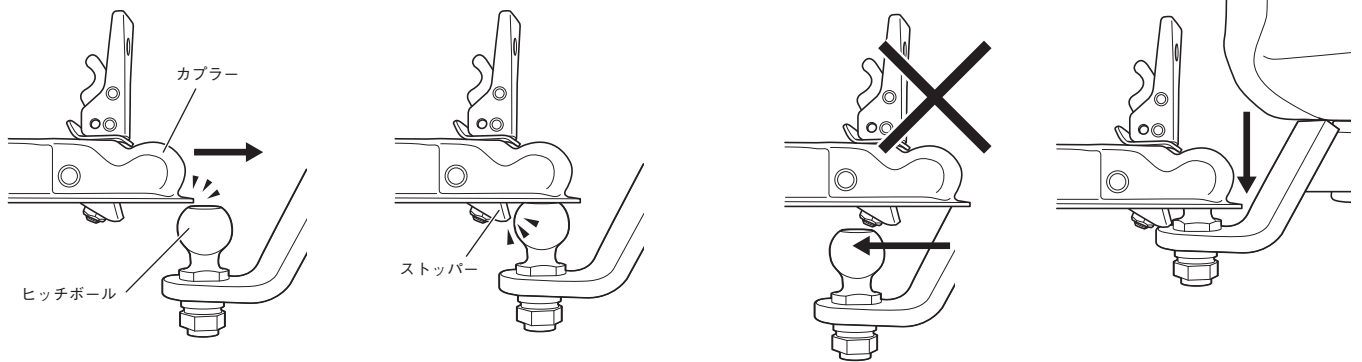


ストッパー 調整方法



⑥ ヒッチボールとカプラーの連結

注意 手・髪の毛・衣類等を挟まないように注意してください。



① ヒッチボールの上にカプラーの先端がのるようにジャッキで高さを調節し、前方へ滑らせるように動かします。

② カプラーのストッパーがヒッチボールに当たり、上から見てカプラーとヒッチボールが重なるまで前進させます。

危険 ヒッチボールを通り過ぎてもカプラーを後退させないでください。ストッパーがヒッチボールの上に乗じ接続することができません。通り過ぎた場合、手順⑤の「ヒッチボールの位置合わせ」からやり直してください。

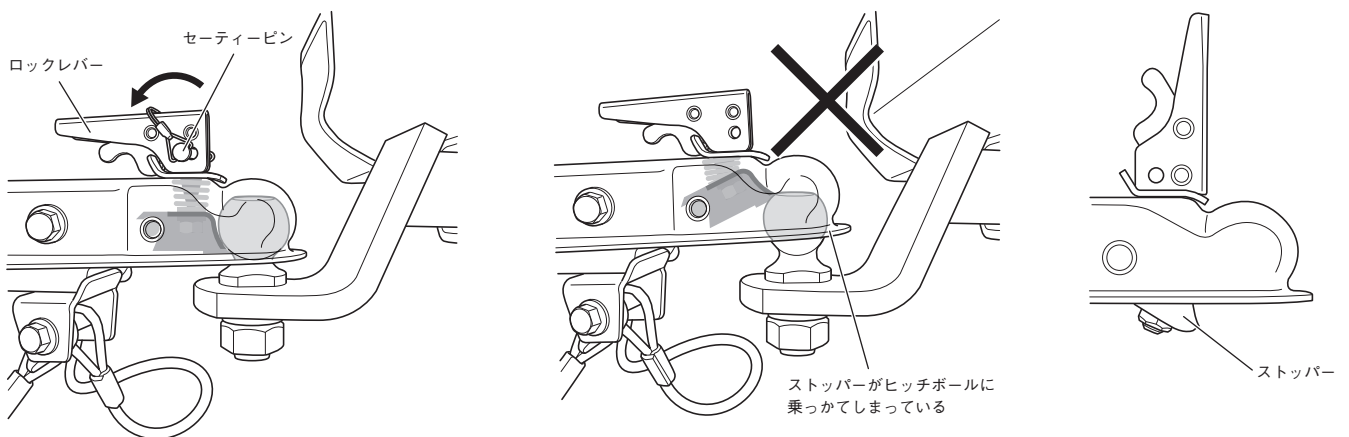
③ トレーラージャッキでゆっくりとカプラーを下げます。カプラーがヒッチボールにぶつかり、トレーラージャッキが軽くなるまでトレーラージャッキを下げます。

⑦ 連結部の固定

下から確認しながらロックレバーを下げ、ヒッチボールとカプラーを正しく連結できていることを目視で確認します。その後、セーフティーピンを通しロックします。

危険 正しく連結していないと重大な事故が発生します。※正しく連結できていなかったことが原因で発生した事故につきましては、責任を負いかねます。

警告 上から見るとヒッチボールがしっかりととはまっていなくても連結できているように見えてしまうことがあります。目線を下げて、下からも確認してください。正しくはめられていない場合は図の様にカプラーが浮いた状態になります。ロック後一度トレーラーのメインフレームを持ち上げ、上下に2、3回強くゆすり、カプラーが確実に固定されているか確認してください。

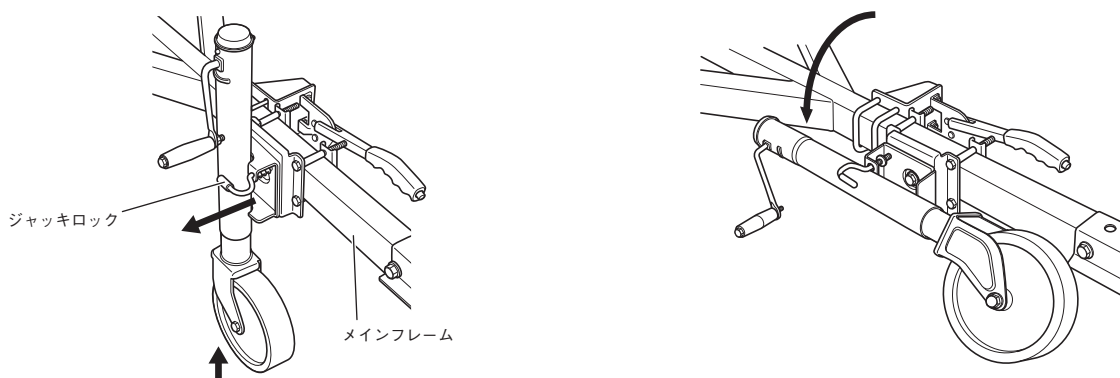


⑧ トレーラージャッキを折りたたむ

ハンドルを回し、ジャッキのタイヤを浮かせ、ジャッキロックを引き、支柱を90度回転させて、メインフレームと平行にします。ジャッキロックがかかり、トレーラージャッキを左右に揺すり、メインフレームに固定されていることを確認してください。

警告 ・トレーラージャッキを折りたたまずに走行すると製品の破損や思わぬ事故の原因となります。
・ジャッキロックが確実に固定されていないまま使用すると、ジャッキが突然落ち、事故やケガをする原因となります。

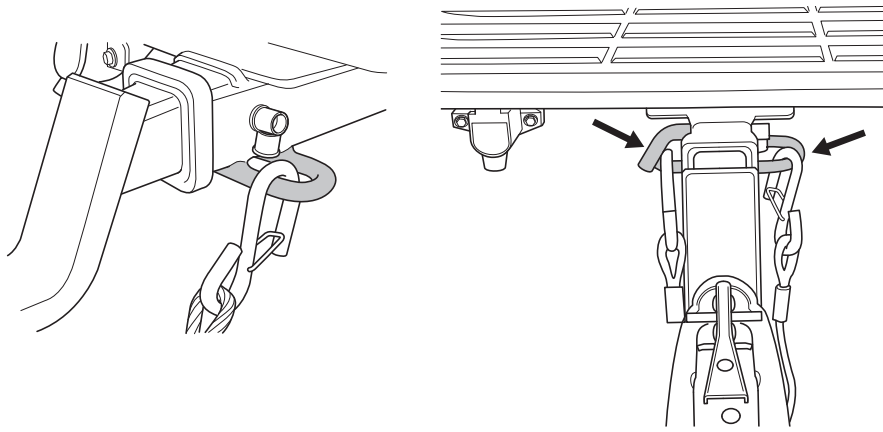
注意 指挟みに注意してください



⑨ セーフティーワイヤーを掛ける

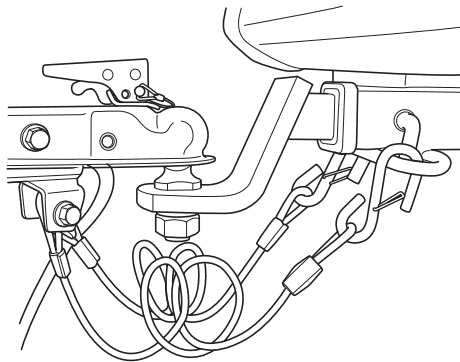
セーフティーワイヤーのフックをけん引車両のヒッチメンバーに取り付けます。(×2)

万一カプラーが外れてしまった場合にセーフティーワイヤーがけん引車両とトレーラーを繋ぎ止める重要な役割をしてくれます。



セーフティワイヤーが絡まっていないか、何かに引っかかっていることがないか確認してください。

注意 セーフティワイヤーが絡まっている場合、急な角度のカーブなどで、けん引車とトレーラーに角度が付いたときにワイヤーが切れてしまうおそれがあります。

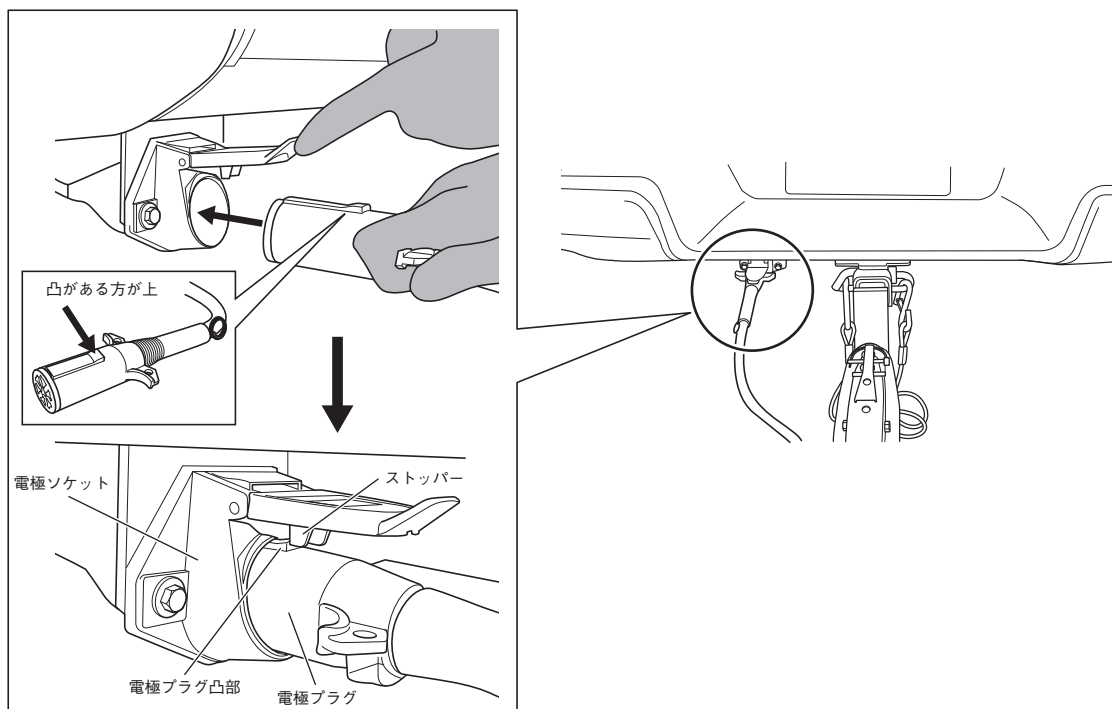


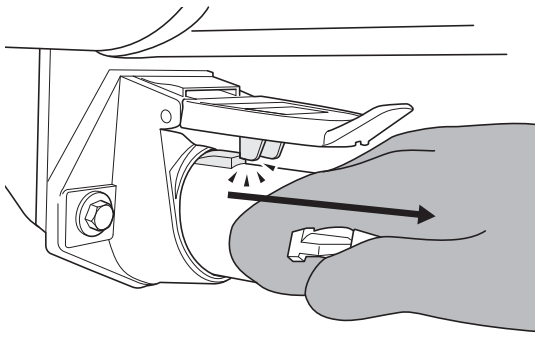
⑩ 電極プラグを電極ソケットに接続

① 電極ソケットのカバーを上げ、電極プラグの凸がある方を上にして差し、止まるまで押し込み接続します。

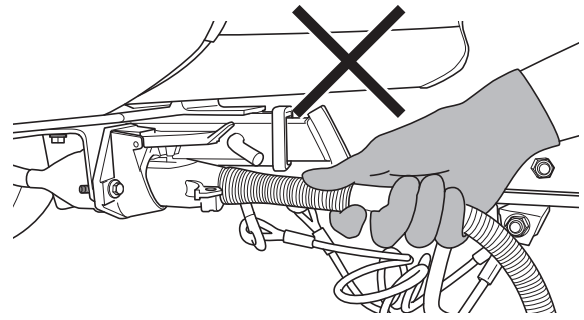
警告 電極プラグの抜き挿し時は、けん引車両のエンジンを必ず停止させてから行ってください。通電状態での抜き挿しは、スパーク発生によるコネクターやヒューズ破損、感電による思わぬケガを負うことにつながるおそれがあります。

注意 電極プラグと電極ソケットに水や異物等が付着している場合はきれいな布で除去してください。





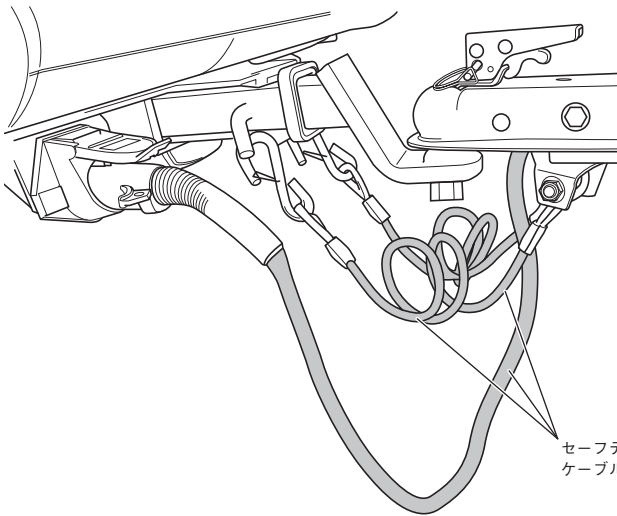
注意 電極プラグを軽く引き、ストッパーが効いているかを確認してください。



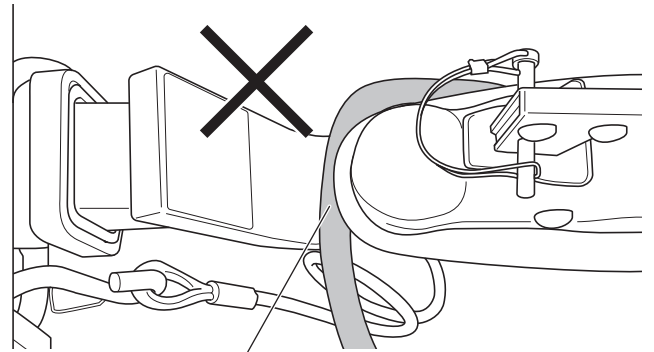
注意 ケーブルを持って引き抜かないでください。断線や破損の原因となります。

②ケーブルがボールマウントの上ののったり、絡まっていないか確認してください。

危険 夜間など視界が悪い際に走行しているときにブレーキランプやテールランプがつかないと、重大な事故が発生するおそれがあります。必ず電極ソケットと電極プラグを接続して、各種点灯するか確認してください。



セーフティーワイヤー、
ケーブルが下に垂れている



ケーブルが上のっている

⑪ 走行前確認

走行前チェックリストを確認してください。(P.43)
走行中もパーキングなどで停車した時には、同様のチェックを行なってください。

[2]トレーラーの設置(走行後)

① トレーラーを停める

設置する場所が適切な場所か確認してください。はしごを使用するため不安定な場所で設置することはできません。設営不可リストを確認してください。(P.43)

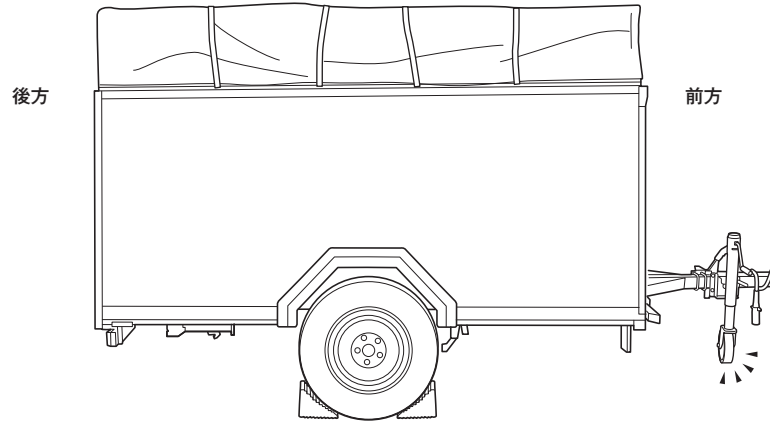
■ トレーラーを取り外さない場合

P.18の「[3]テントベースの設営方法」からご参照ください。

■ トレーラーを取り外す場合

警告 トレーラーを外す前に、けん引車両のエンジンを必ず停止してください。電極プラグを操作するため、排気ガスへの引火や感電などのおそれがあります。

② サイドブレーキを引き、輪留めを設置し、トレーラージャッキのタイヤを地面に着地させる

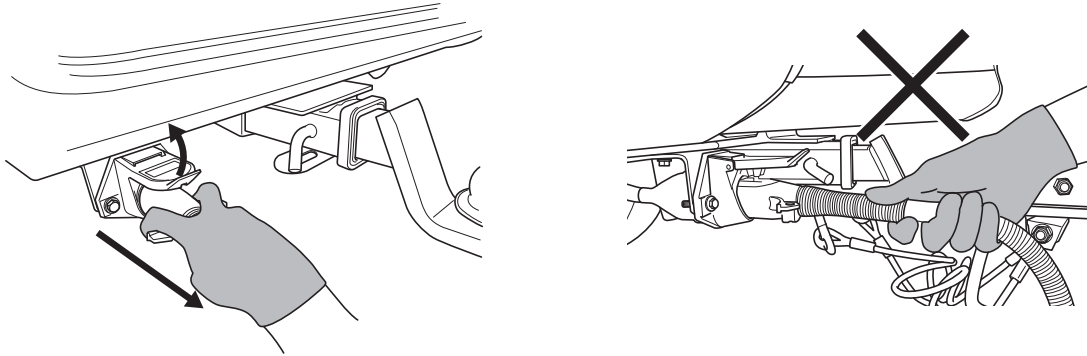


③ 電極プラグとセーフティーワイヤーを取り外す

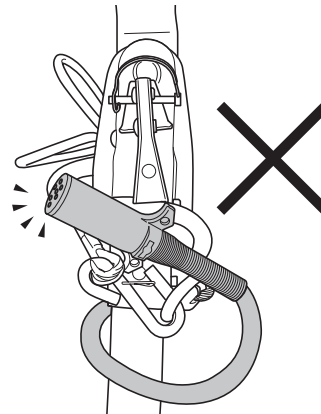
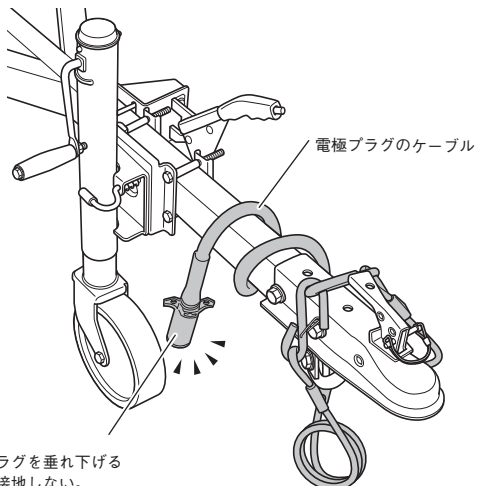
電極プラグはカバーを上げて引き抜きます。

警告 エンジンを停止してから作業を始めてください。感電するおそれがあります。

注意 ケーブルを持って引き抜かないでください。断線や破損の原因となります。



取り外したセーフティーワイヤーは、メインフレームの上でフック同士を連結します。電極プラグのケーブルをトレーラーのメインフレームに巻き付けます。



警告 ・ケーブルが絡み、断線するおそれがあります。
・電極プラグが上を向いている場合、ゴミや雨水がプラグ内に侵入するおそれがあります。

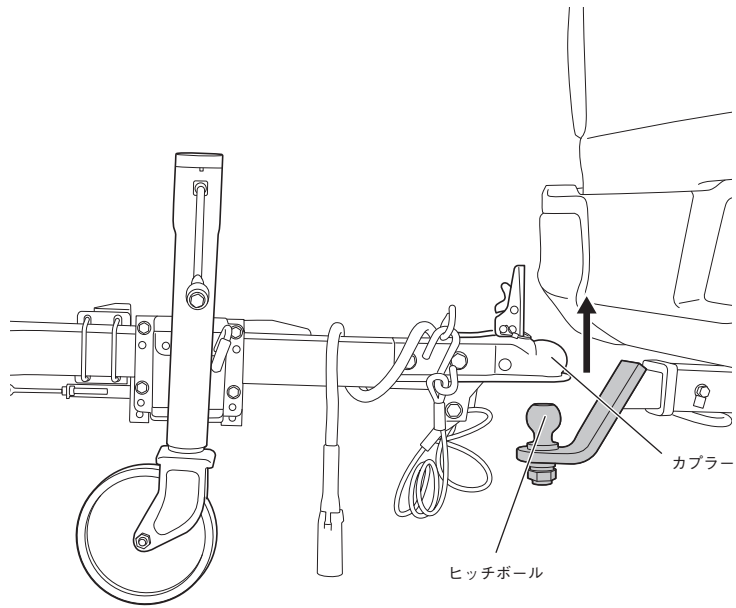
④ 連結部を取り外す

セーフティーピンを外し、ロックレバーを上げます。

⑤ カプラーを上げる

トレーラージャッキを使用し、カプラーをヒッチボールより高くします。

注意 ジャッキを上げすぎないように注意してください。



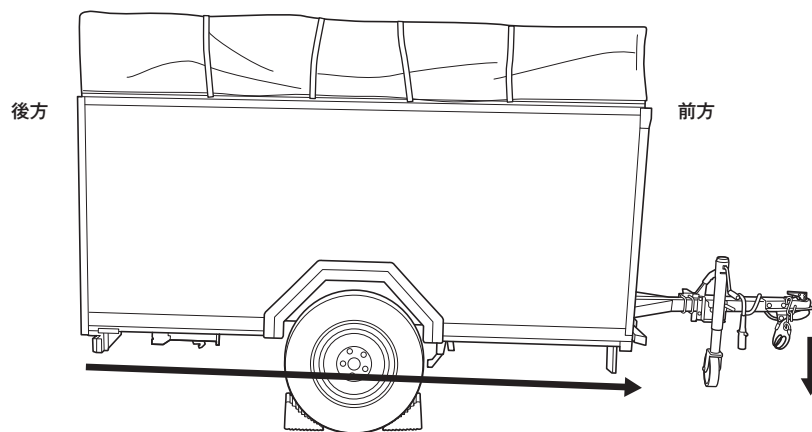
⑥ ロックレバーを下げ、セーフティーピンを取り付ける

⑦ けん引車両を移動させる

⑧ トレーラーのサイドブレーキを下ろし、輪留めを取り除きトレーラーを設営可能な場所に移動させる

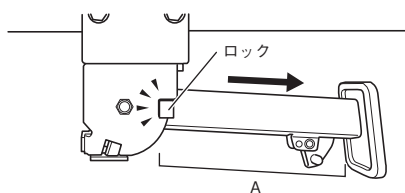
⑨ サイドブレーキを引き、輪留めを入れる

トレーラージャッキを使用し、トレーラーをやや前傾にさせます。

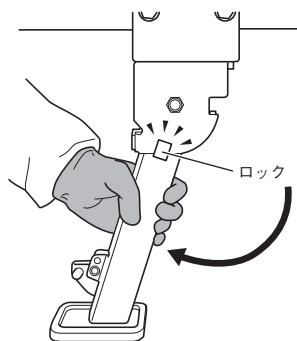


⑩ トレーラー後方のスタビライザーを下げる(×2)

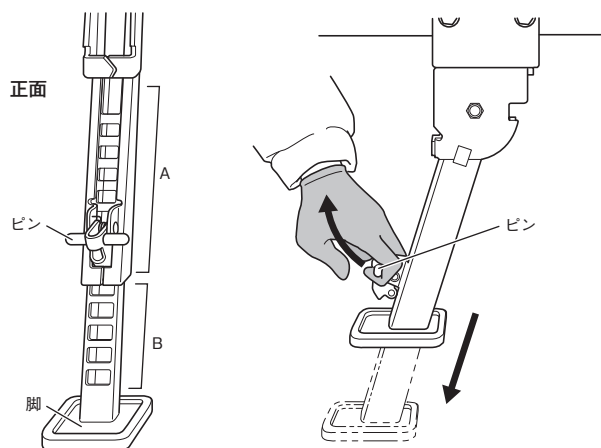
注意 スタビライザーの操作はトレーラーの横から行ってください。後ろから回り込んで作業しないでください。手を挟んだり体が押しつぶされるなどの重大な事故につながるおそれがあります。



① Aを矢印方向に引き、ロックを解除します。



② 矢印方向に開き、ロックがかかったことを確認します。

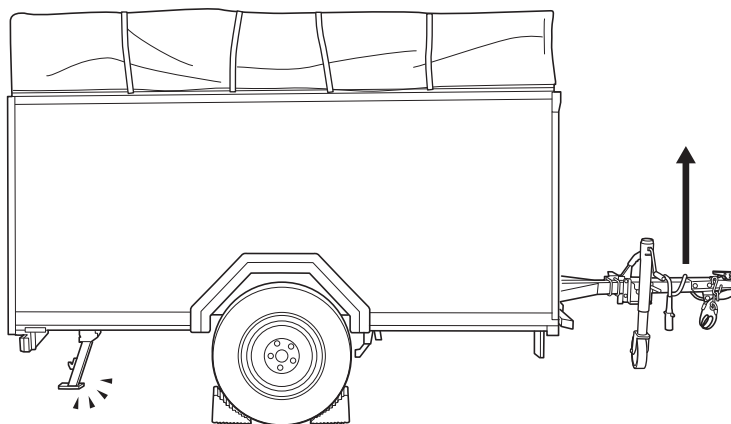


③ ピンを図の様に斜め上に引き、脚が地面に接触したらピンを戻し固定します。Bを上を持ち上げ、ロックがかかったことを確認します。

⑪ スタビライザーの調整

トレーラージャッキを使用してトレーラー本体が水平になるように調整します。スタビライザーが地面に着地し、ガタつきが無いこと確認してください。ガタついている場合は再度スタビライザー、ジャッキの手順で調整してください。

危険 トレーラーを後傾にさせすぎるとスタビライザーが破損する場合がありますのでご注意ください。

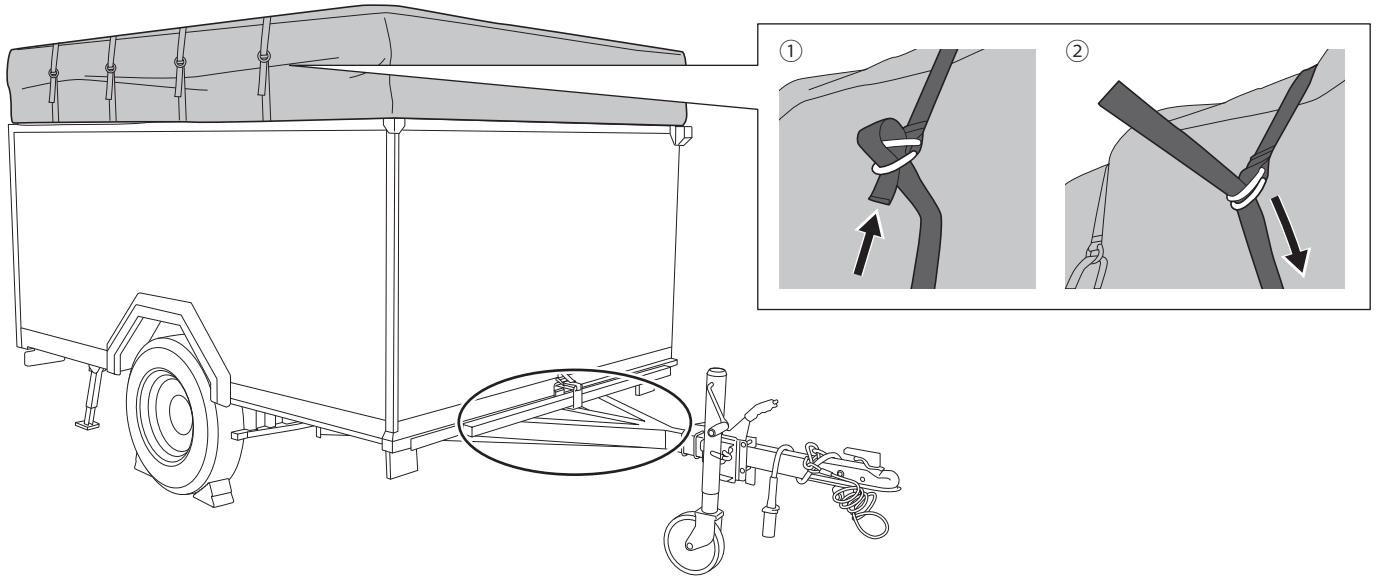


[3] テントベースの設営方法

① テントカバーを取り外す

コンプレッションベルトを取り、テントカバーを取り外します。

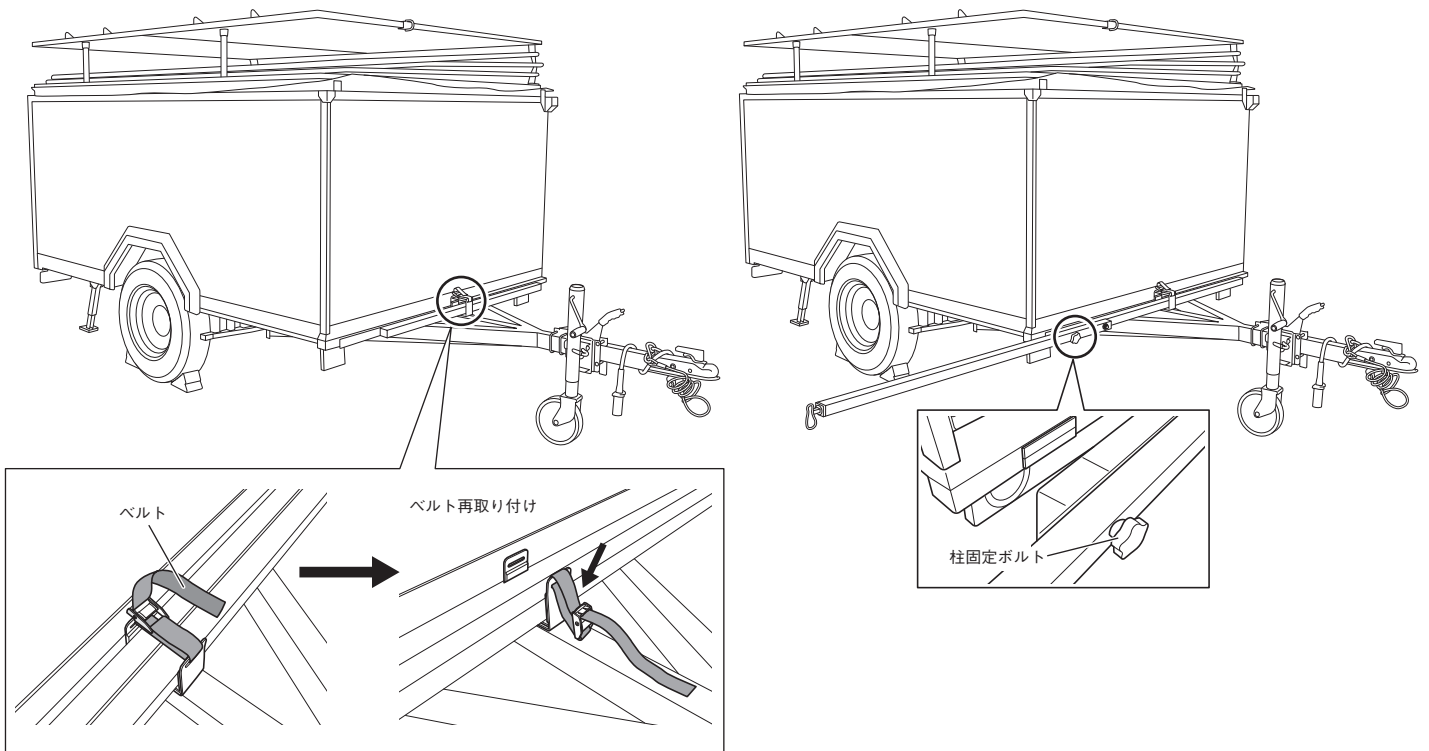
危険 図の円で囲った位置に乗って作業しないでください。脚を踏み外してフレームの間に落下したり予期せぬケガをしまう危険があります。



② 柱を組み立てる

折りたたまれた柱を固定しているベルトを取り、柱を伸ばします。一人が柱の先端を持って水平に維持し、もう一人が図の位置に柱固定ボルトを取り付け、柱を固定します。取り外したベルトは無くさぬように同じ場所にベルトを通して取りつけておきます。

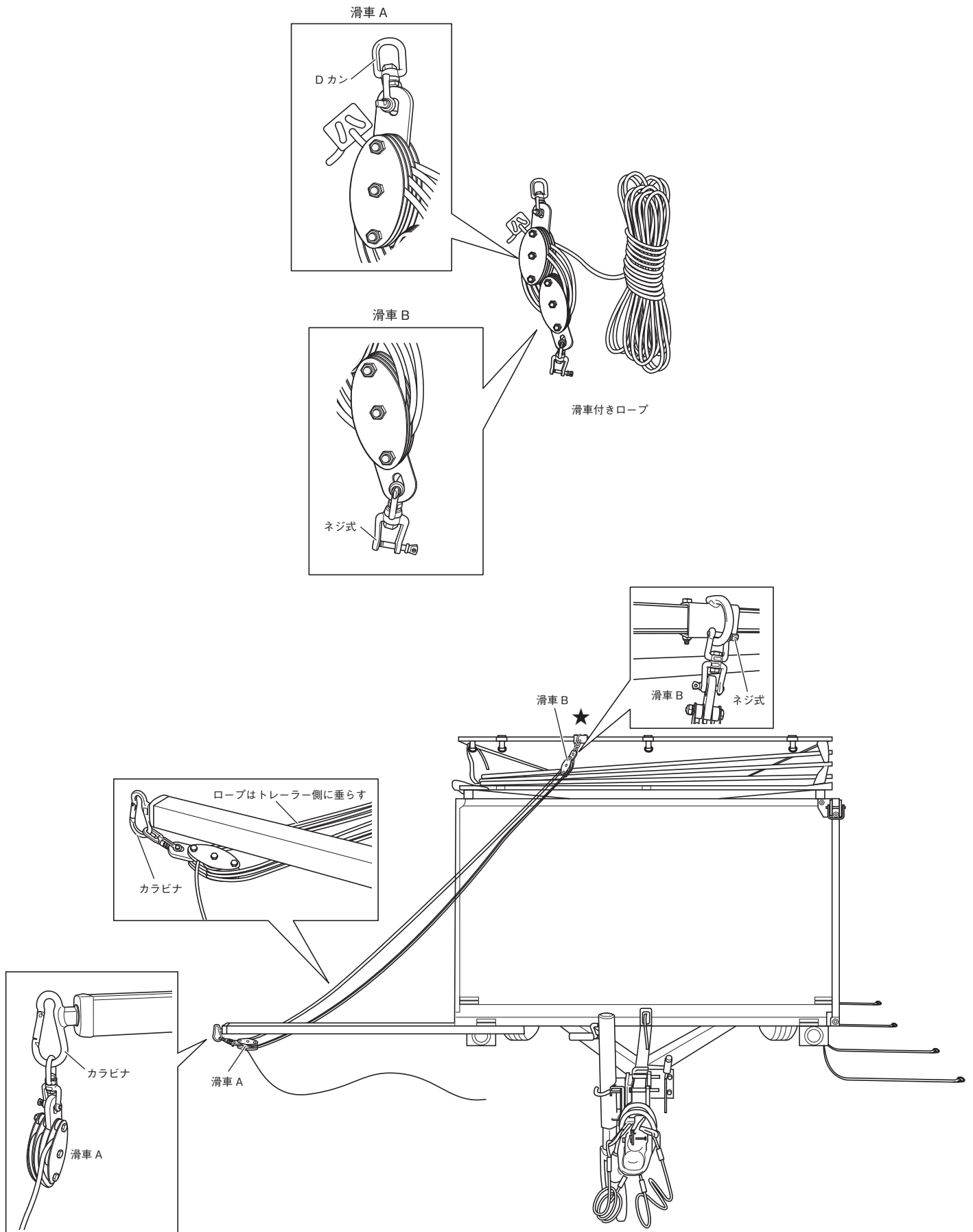
警告 伸ばした柱を支えないまま柱固定ボルトを固定した場合、固定が不十分で、柱が倒れるおそれがあります。柱固定ボルト固定時は、柱固定ボルトに柱の荷重がかからないようにした状態で確実に固定してください。



③ 滑車付きロープを取り付ける

滑車AのDカンを柱の先端のカラビナに取り付け、1人が柱を押さえ、もう一人がロープをねじれないように少しずつほどきながら伸ばします。滑車Bをテントベースの★に取り付けます。

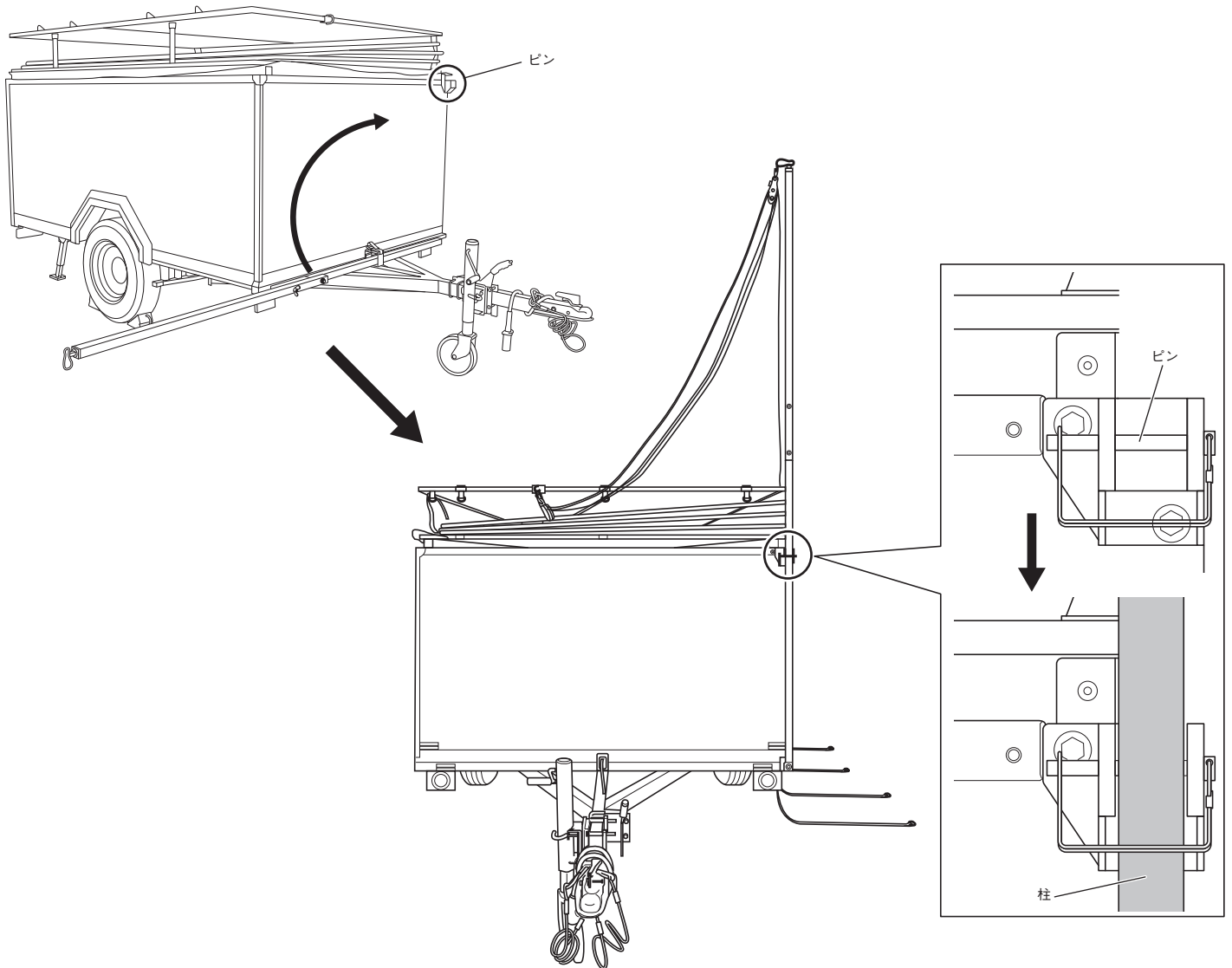
メモ ロープはトレーラー側に垂らしておくこと



④ 柱を立ち上げる

柱を立ち上げ、ピンでトレーラーと柱を固定します。

注意 柱が倒れてこないように設営補助者がしっかりと支えながらピンを取り付けてください。

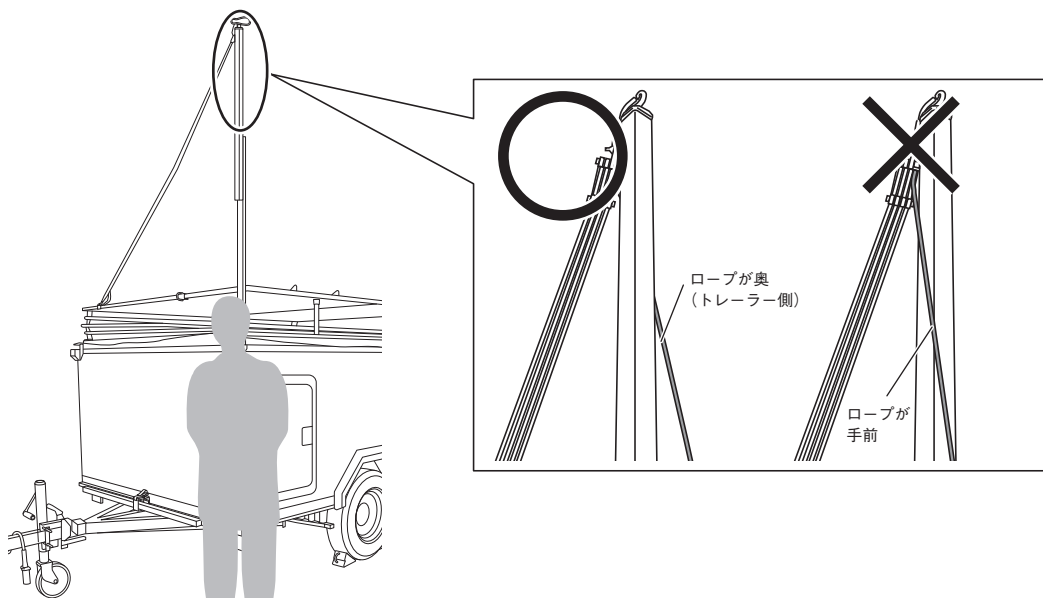


⑤ テントベースを開く

周囲に人がいないことを確認し、図の位置に立ちます。

ロープは、図の立ち位置から見て柱の奥側から垂らして引きます。

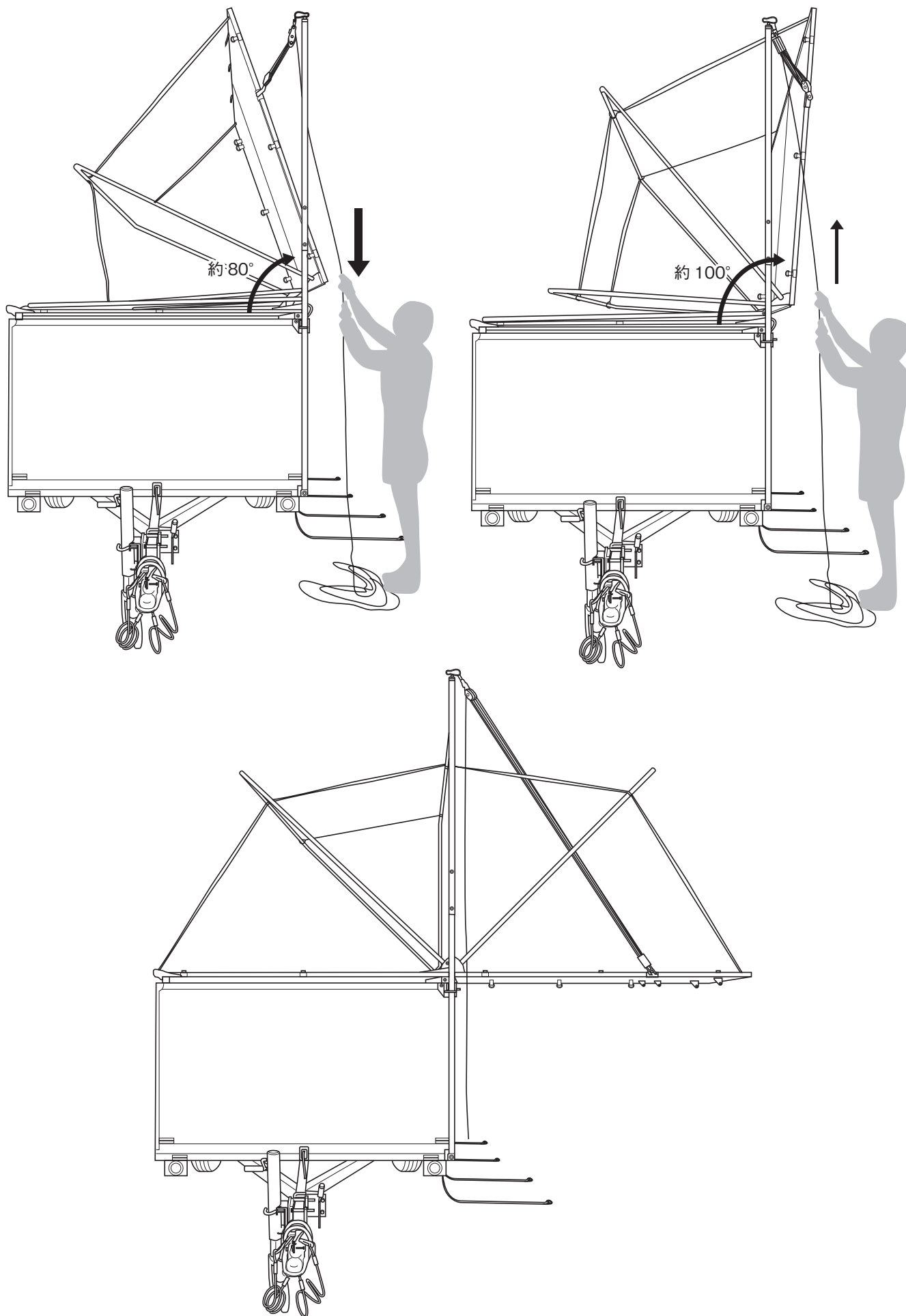
危険 周囲に人がいないか注意し、テントベースが開く位置に入らせないようにしてください。
万一、ロープから手が離れてしまった場合に重大な事故が発生するおそれがあります。



テントベースが柱を越える直前の位置(約80°)に差し掛かったら、勢いをつけて引っ張ります。その後、テントベースが柱を越えた位置(約100°)に差し掛かったらロープを持つ手をゆるめながら、テントベースを開ききります。

危険 テントベースの開閉部などに指を置いたりしないでください。指を切断するなど重大な事故につながるおそれがあります。

注意 テントベースを開いた際にテントカバーのベルクロを挟むとテントベースの強度が下がり大変危険です。テントベースを開ききったあと、テントベースの間にベルクロが挟まっていないか確認してください。



■ はしごの接続方法

はしごを設置する場所が安定する場所か確認してください。安定しない場所で設置することはできません。

安定しない場所で設置した場合、はしごからの転落等重大な事故につながるおそれがあります。

設営不可リストをご確認ください。(P.43)

はしごの設置作業は安全のため大人2名で行うことを推奨します。

⑥ はしごを伸ばす

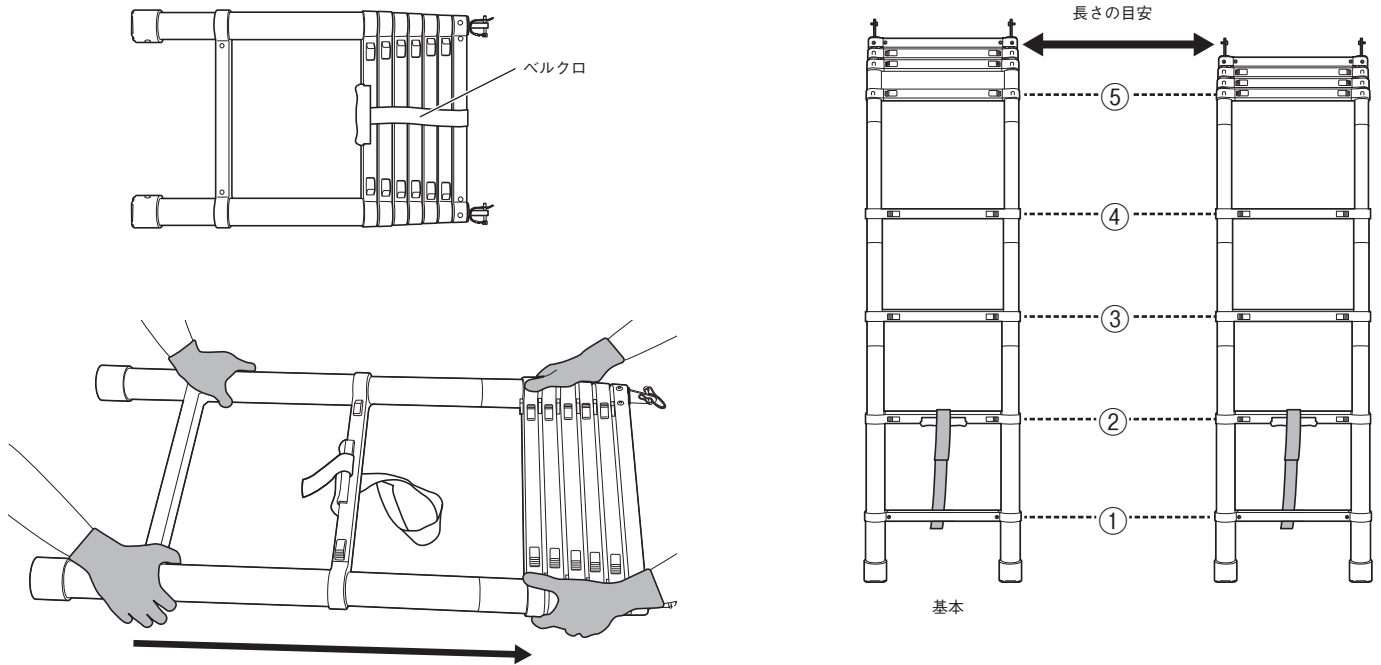
トレーラーからはしごを取り出し、はしごを固定しているベルクロを外します。

はしごを地面と平行にして、1人は最下段を持ちます。

もう一人が下から順に1節ごとに「カチッ」とロックがかかることを確認しながら引き、図にしたがって長さを調整してください。

(目安:下から5段が固定されている) (×2脚)

注意 はしごのベルクロはくりつけたりせず、後ろに垂れ下がるようにしてください。



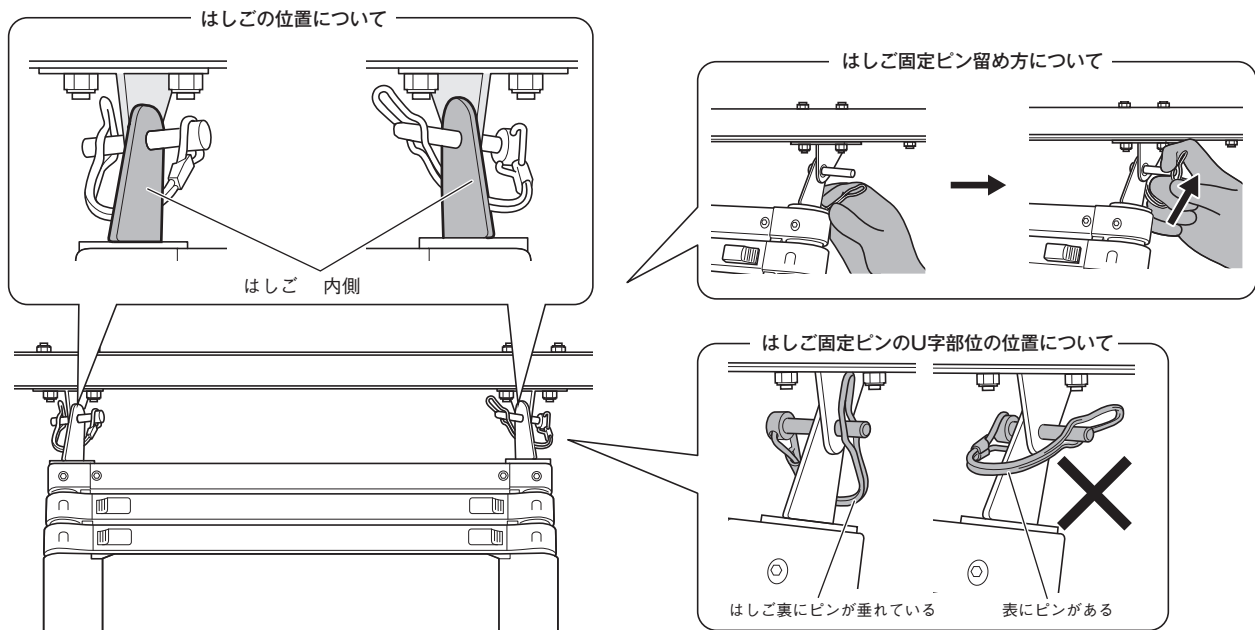
⑦ はしごを取り付ける

黄色の警告ラベルが貼付されている側を正面にし、はしごの先端についてはしご固定ピンを取ります。

はしごの金具がテントベースの金具の内側に収まるようにはしごを持ち、図の位置の穴にはしご固定ピンを図の向きで差し固定します。(×4か所)

警告 ・はしごの金具がテントベースの金具の内側に来ない場合、強度が十分に補償されません。下の図にしたがってはしごの金具が確実にテントベースの内側に来るように取り付けてください。
・ピンの向きが正しくない場合、靴紐等を引っかけて転落等の重大な事故につながるおそれがあります。

注意 はしご固定ピンの取り付け、取り外しで指を挟んだりケガをしないように注意してください。

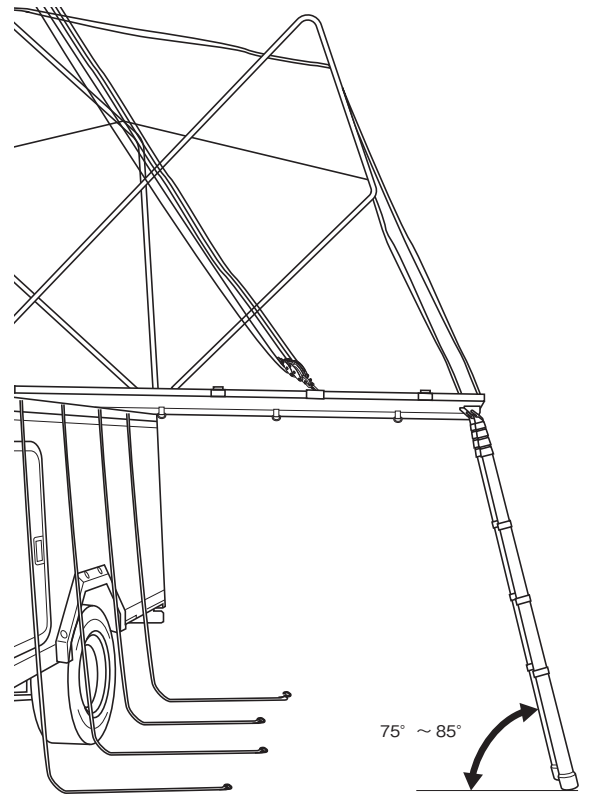
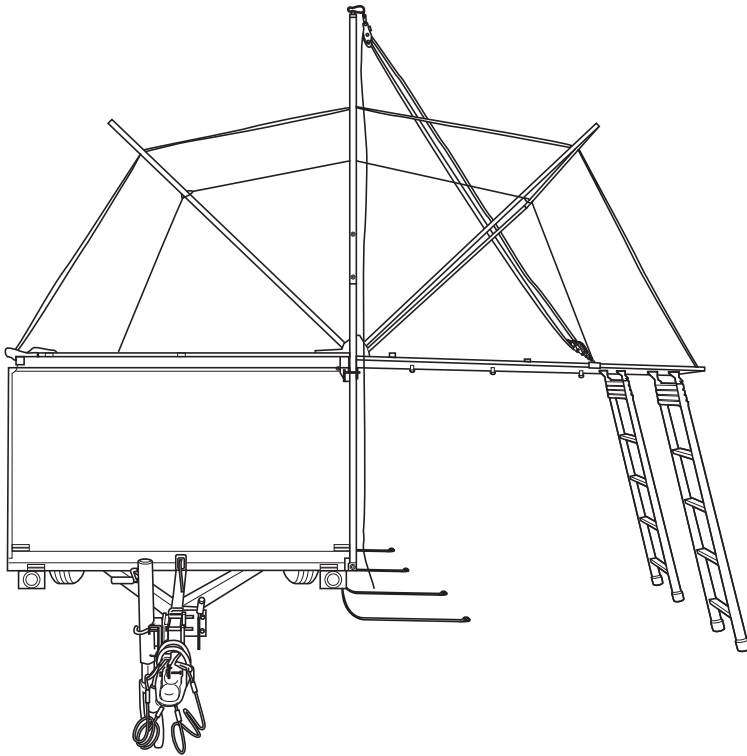


⑧ はしごの取り付け角度を調整する

テントベースが水平になるように、はしごの角度で調整します。

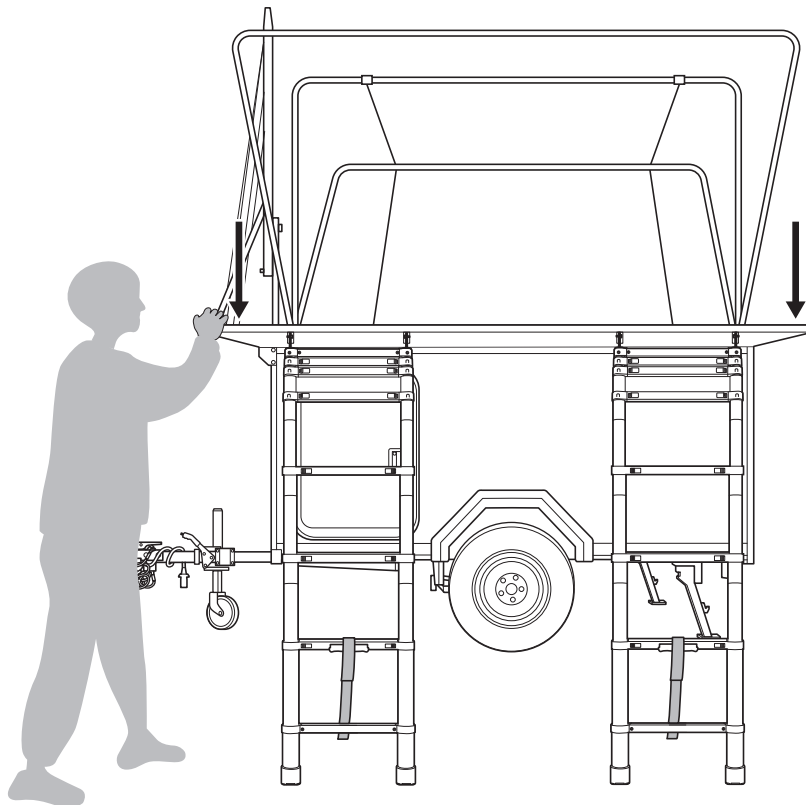
このとき、はしごの角度を地面から75°~85°以内でバランスよくテンションがかかる角度に調整してください。

警告 はしごの足元の状態を確認し、はしごに昇る際に倒れる危険がないか確認してください。



テントベースの図の位置に体重をかけ、テントベースが浮かないか確認してください。浮いた場合は再度はしごの角度を調整してください。

警告 はしごを正面から見て、傾いていないか、ねじれていないか確認してください。

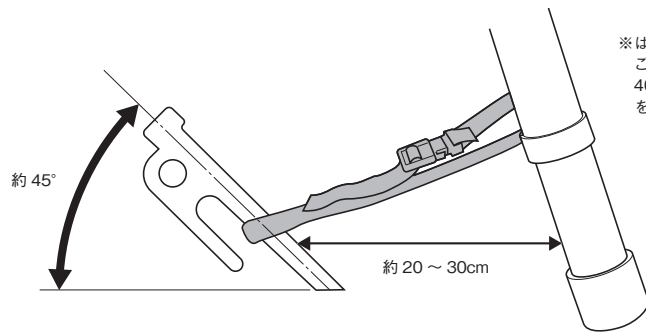
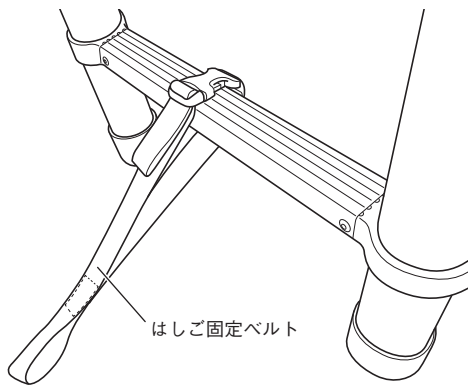


⑨ はしごを固定する

はしご固定ベルトをはしごの最下段に取り付け、はしごから20~30cmの位置でベグダウンします。ベグを打ち込む角度は、はしご固定ベルトに対して45°になるようにベグダウンします。

警告 はしご固定ベルトにテンションをかけ、はしごが動かないことを確認してください。はしごが動いてしまうとテントベースの破損および落下等のおそれがあります。

取り付け位置



※はしごを固定するため、ご使用するベグは、40cm以上の鍛造ベグを推奨します。

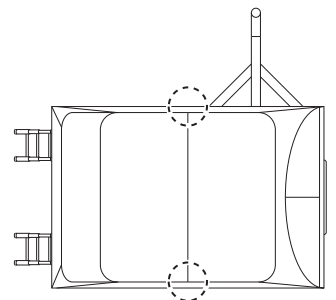
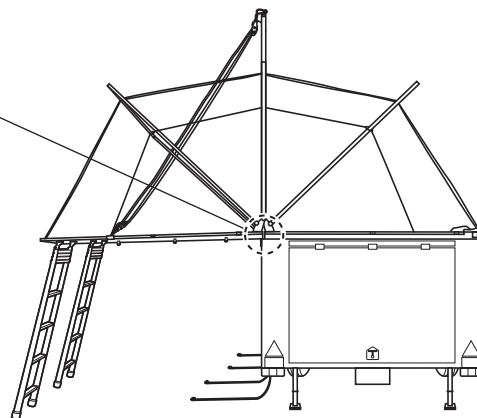
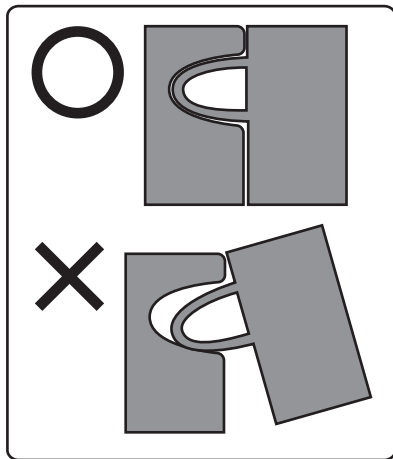
■ はしごの確認事項

- 警告**
- ・はしごの長さを調整するために、石や木などの上に乗せたりしないでください。はしごが滑り危険です。
 - ・はしごの耐荷重は1台あたり150kgです。
 - ・はしごからはしごへ乗り移らないでください。転倒、転落してケガをするおそれがあります。
 - ・はしご上段部の伸ばし切っていないステップはつかまないと危険です。指を挟みやすく危険です。上段部をつかむ代わりに、テントベースもしくは伸ばし切った部位のステップをつかんでください。
 - ・両手両足を使用して1段ずつ昇り降りしてください。降りる際は最下段まで使用して慎重に降りてください。
 - ・夜間など足元が見えづらいときは、テントやトレーラーにライトを取り付けたり、ヘッドライトを使用するなど両手を使ってはしごを昇り降りできるようにしてください。
 - ・大きな荷物や両手を使った昇り降りが出来ない荷物があるときは、背中に背負ったり、直接テントベースへ持ち上げるなどしてしっかりと両手両足を使用して昇り降りできる状態にしてください。
 - ・降りる際は、はしごに背を向けて降りないでください。
 - ・一台のはしごに複数人が乗らないようにしてください。必ず1人が昇り(降り)きってから次の人が使用してください。
 - ・子どもが昇り降りする際は、補助者がはしごの足元を片足で押さえて、両手ではしごをしっかり支えてください。バランスをくずして、転倒や転落のおそれがあります。また使用中は、はしごを支える補助者以外の人は近づけないでください。
 - ・酩酊状態や妊娠している方、身体に異常を感じるときなどは使用しないでください。身体のバランスが保てず、転倒や転落のおそれがあります。

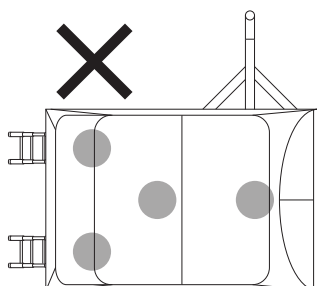
- 注意**
- ・はしごの使用中に無理に押ししたり引いたりする動作をしないでください。反動ではしごが不安定になります。
 - ・はしごへ昇る前に、すべてのステップが確実にロックされていることを確認してください。
 - ・はしごから身体を乗り出さないでください。身体を乗り出すとバランスを崩すおそれがあります。

■ テントベースの確認事項

- 警告** ・テントベースに登る前にテントベースの左右の接合部がしっかりと噛み合っているか確認してください。テントベースが浮いているなどの異常を感じた場合は再度確認してください。



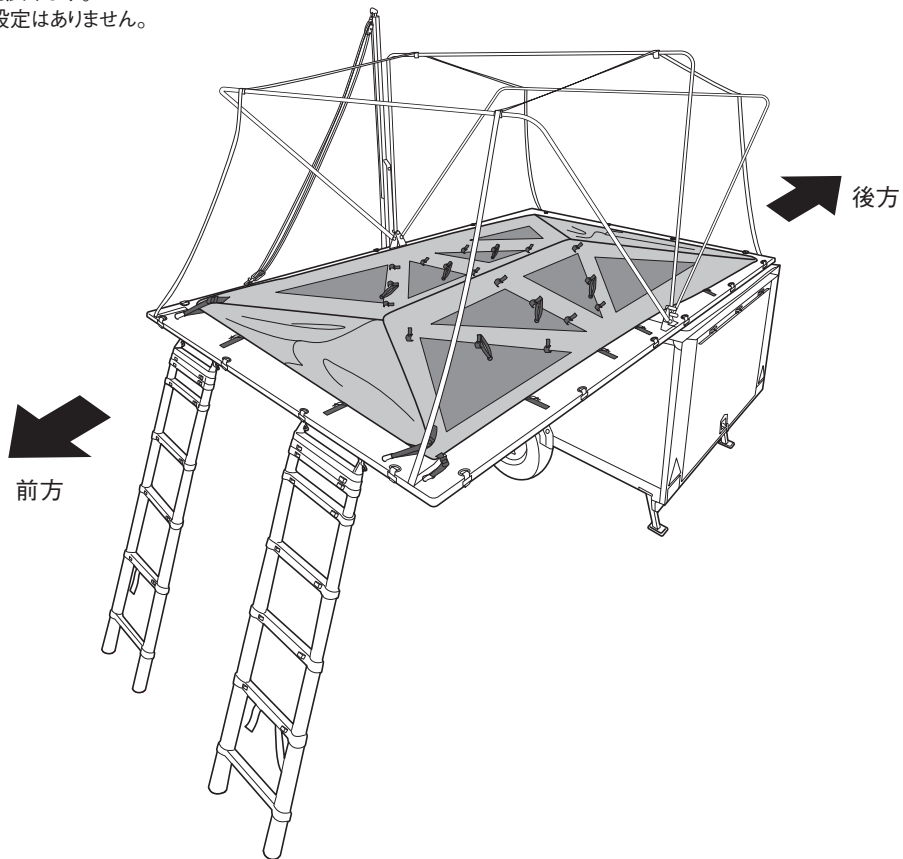
- ・テントベースの片側に同時に3名以上乗らないでください。



[4] テントの設営方法

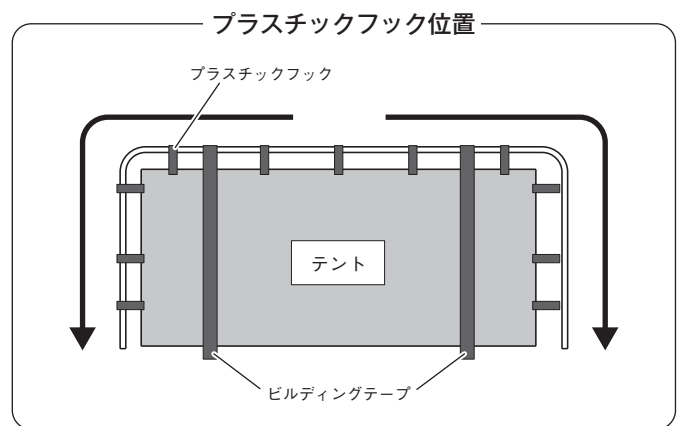
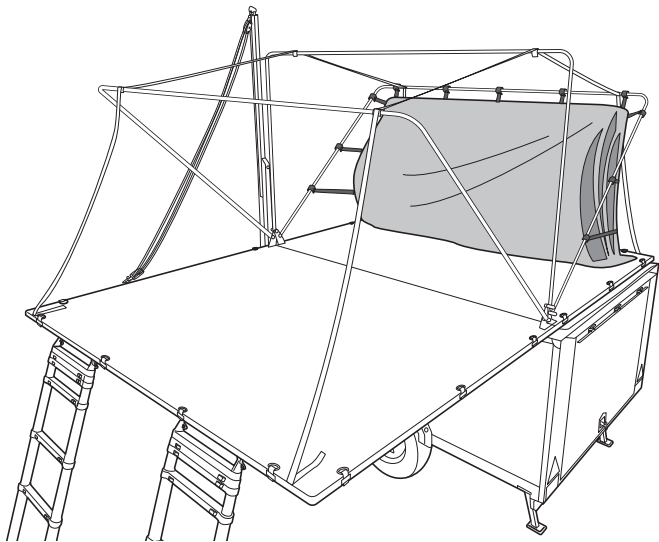
① テントを広げる

テントベースの上にテントを広げます。
※テント本体には前後の設定はありません。

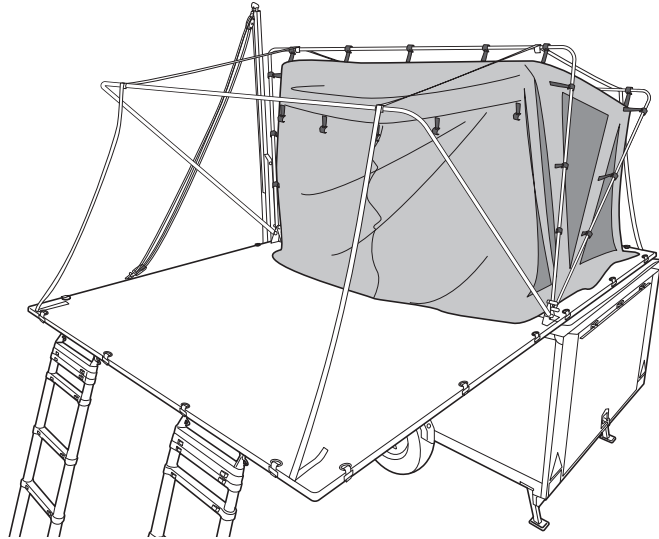


② フレームとテントのプラスチックフックを固定する

テントをテントベース後方側へ寄せて、後方のフレームから図の順番にテントのプラスチックフック(11か所)を掛けてください。
このときビルディングテープが図の位置にあることを確認してください。

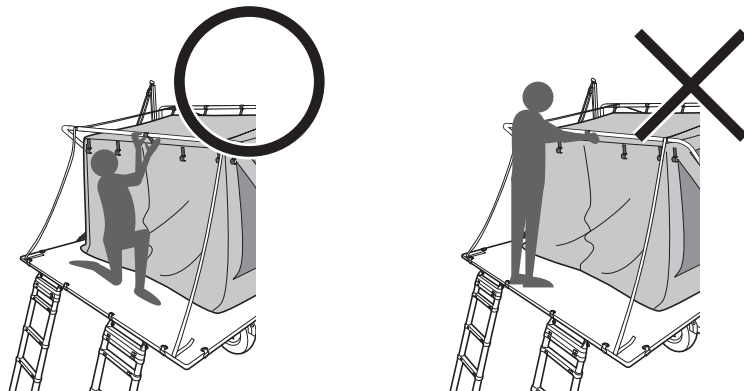
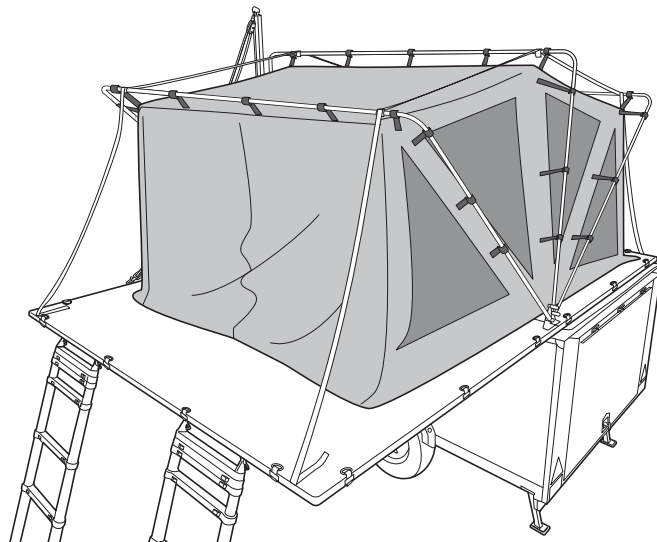


テントベース中央のフレームも同様にプラスチックフック(11か所)を掛けてください。



テントベース前方のフレームも同様にプラスチックフック(11か所)を掛けてください。この時、図の様に姿勢を低くして、落下に注意して作業を行ってください。

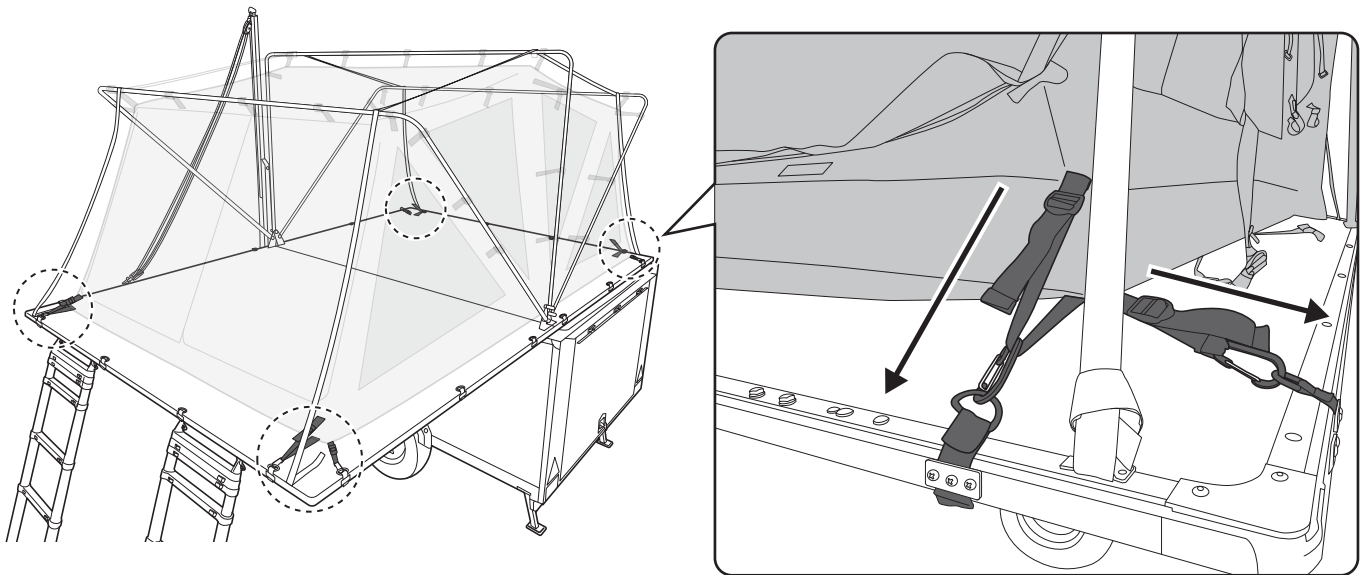
警告 テントベースの端に立ちながら設営作業はしないでください。落下の危険があります。また中腰での作業であってもテントベース周囲には気を配り、落下に注意しながら作業してください。



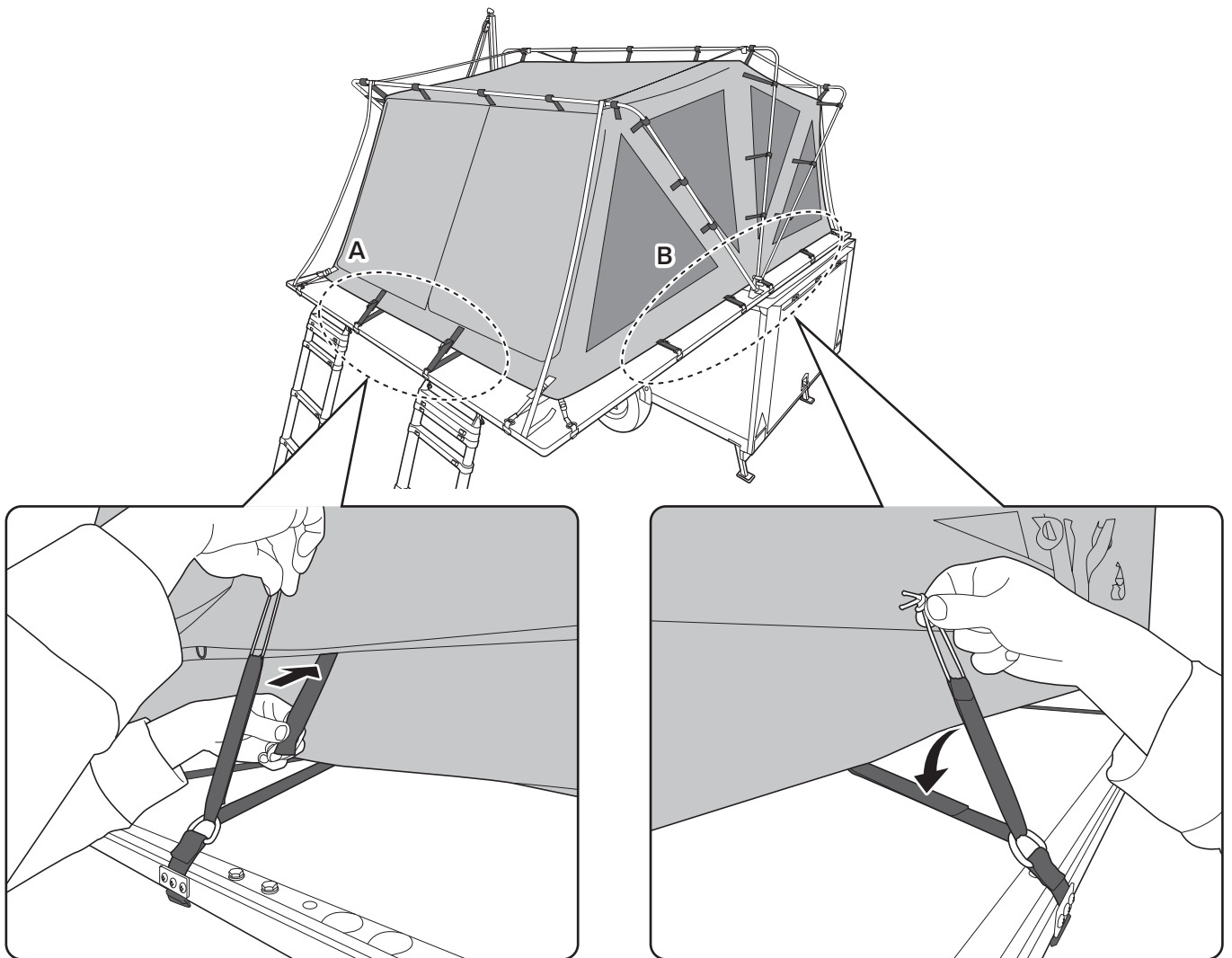
③ テントのボトム部分とテントベースを固定する

テントの各ボトムコーナー部分にあるカラビナ(全8か所)を取り付け、アジャスターベルトを引きテンションを掛けます。

注意 テントベースに乗ったまま作業をしないでください。



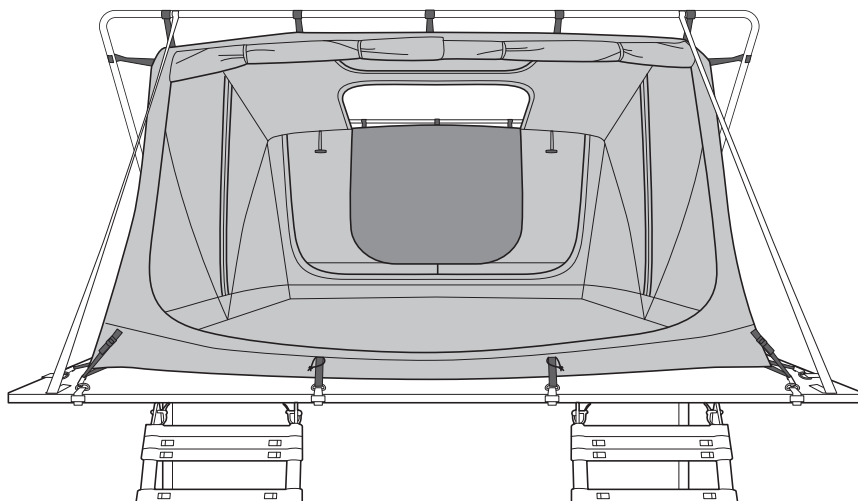
A/B部分のベルクロ付きテープをリングに通して固定します。



[5] シールドルーフの設営方法

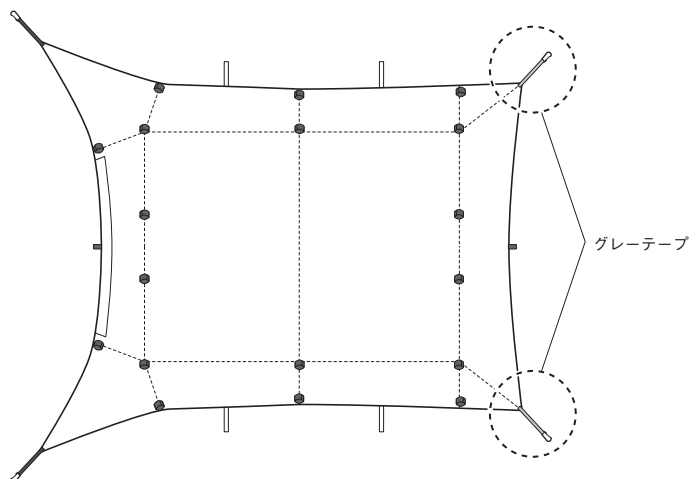
① 天井窓を開ける

テント内から作業をするため天井窓を開けます。



② シールドルーフを広げる

シールドルーフを広げ、前後を確認します。グレーのテープが付いている方が後方側です。

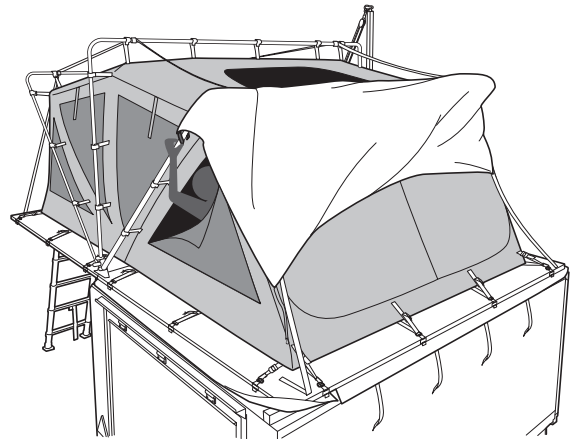
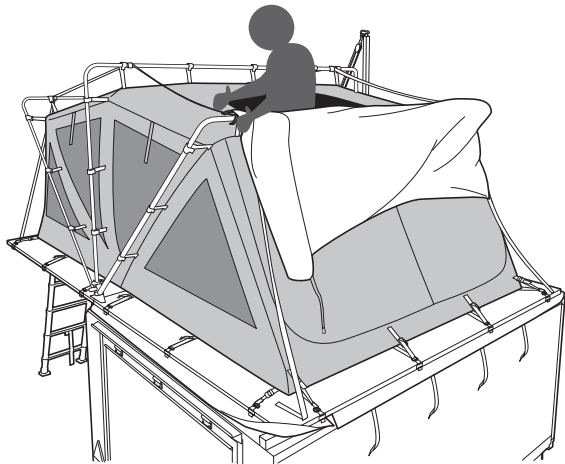


③ フレームとシールドルーフのベルクロを固定する

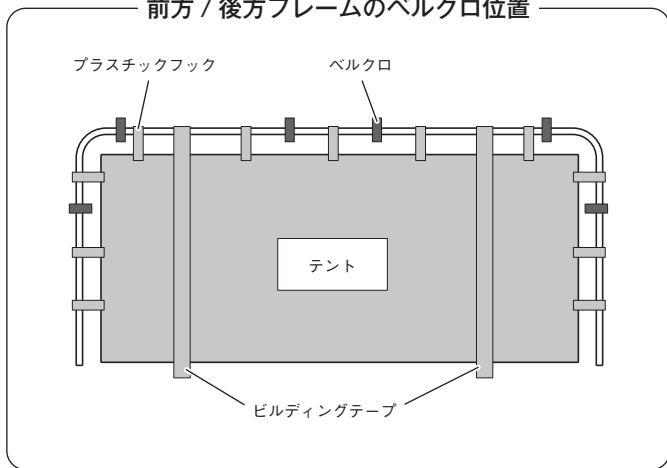
シールドルーフの裏側にあるベルクロ(計16か所)をフレームへ巻き付けて固定します。
中央のフレームには4か所、前方と後方のフレームには6か所ベルクロがあります。

側面のベルクロに手の届きにくい場合は、テント側面の窓から手を出して固定してください。

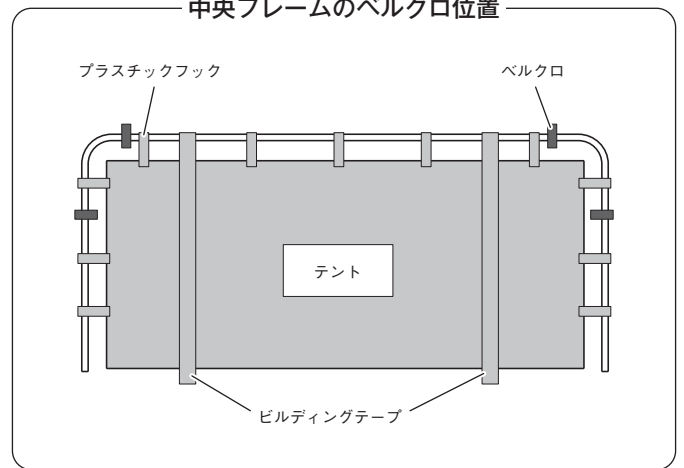
警告 外側に身を乗り出したり、よじ登って作業をすると落下の可能性があります、大変危険です。



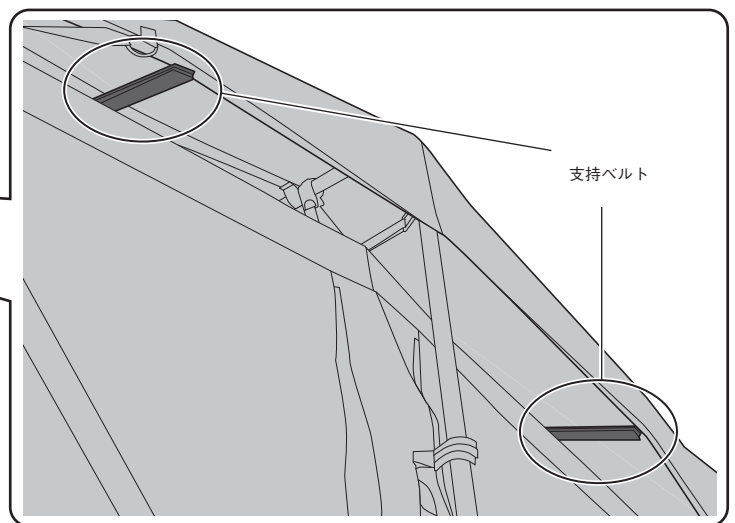
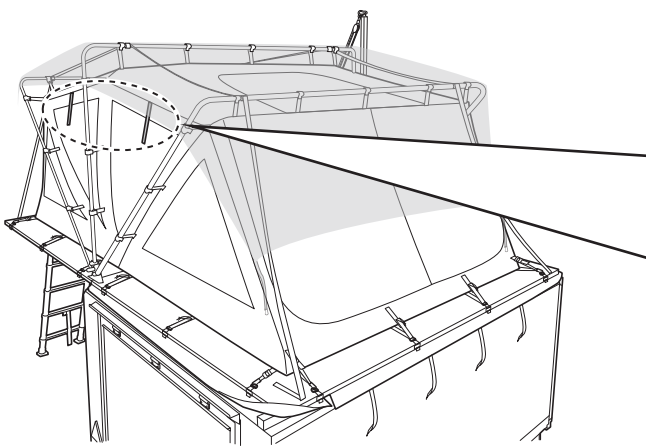
前方 / 後方フレームのベルクロ位置



中央フレームのベルクロ位置



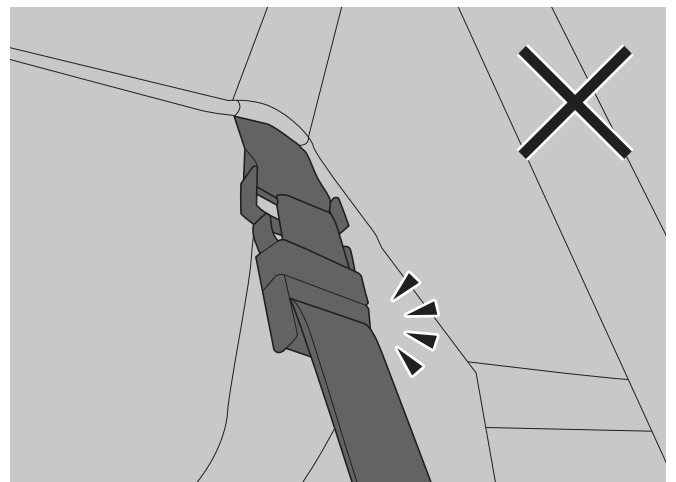
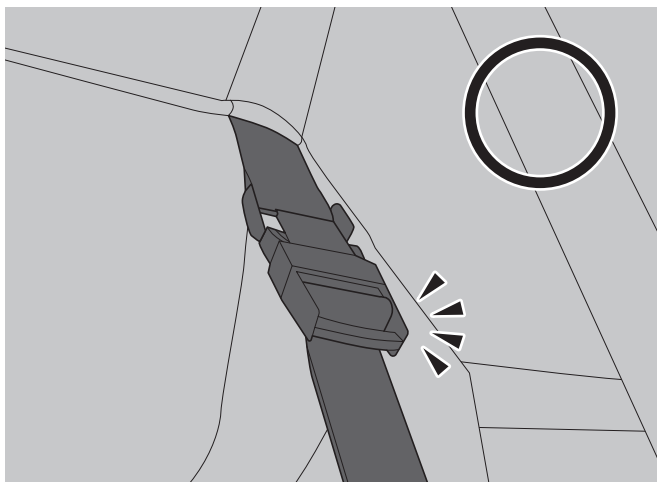
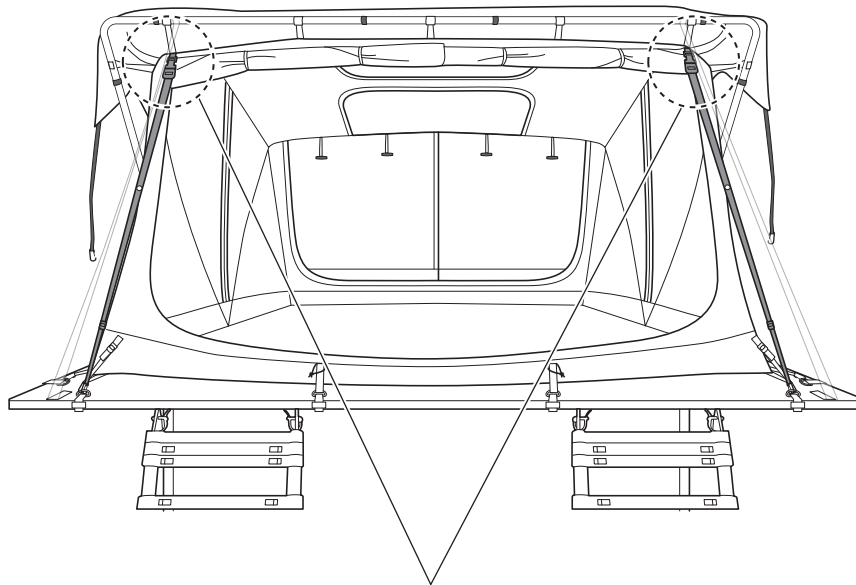
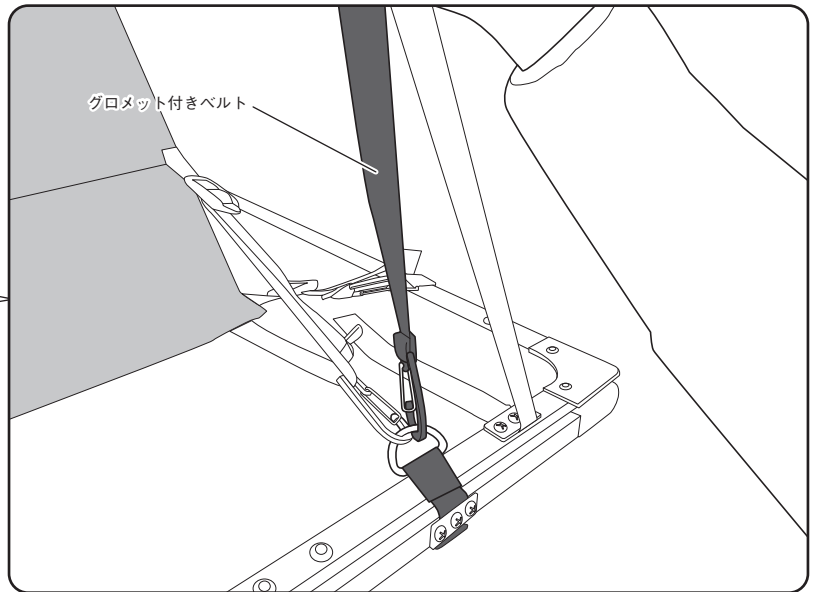
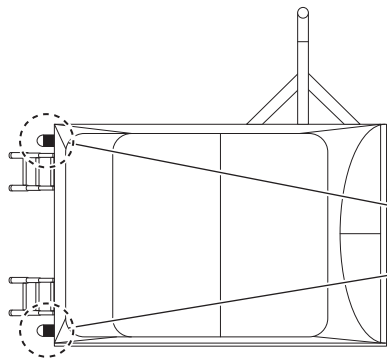
テントとシールドルーフを支持ベルト(計4か所)のベルクロで固定します。



④ グロメット付きベルトを取り付ける

グロメット付きベルトをテントベースとテントに固定します。カラビナ部分をテントベースに固定した後、バックル側をテントに接続します。

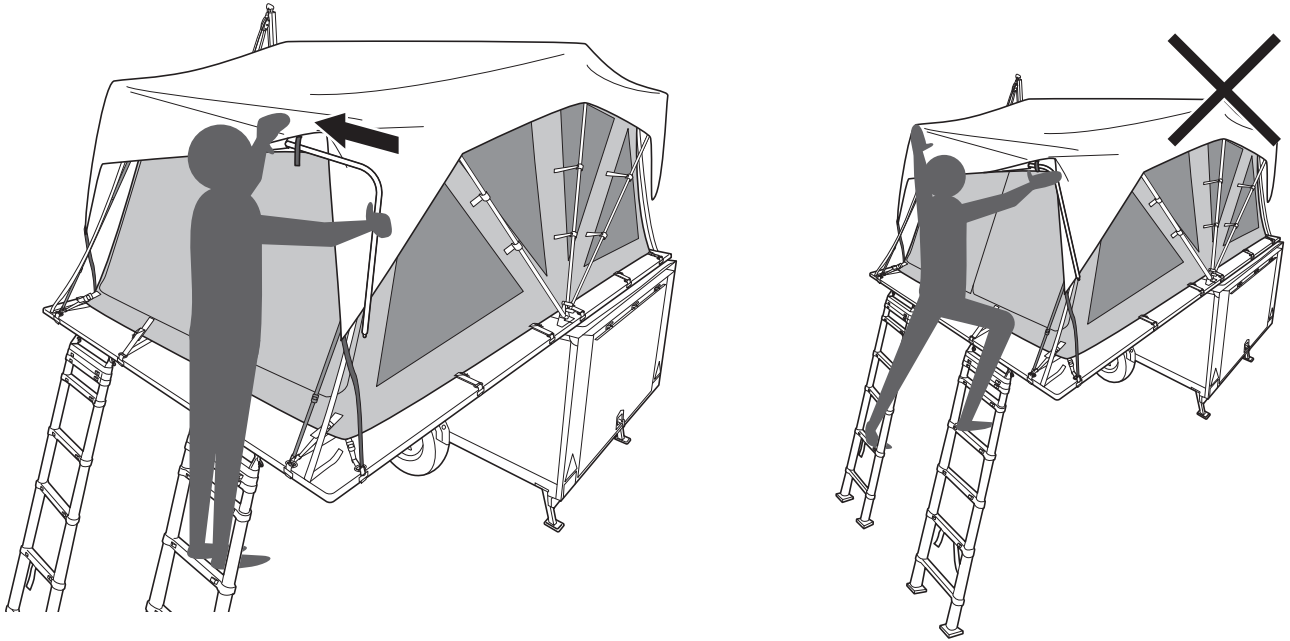
グロメット付きベルトのカラビナ部分を図の位置のDカンへ固定します。この時ベルトがねじれないように注意してください。



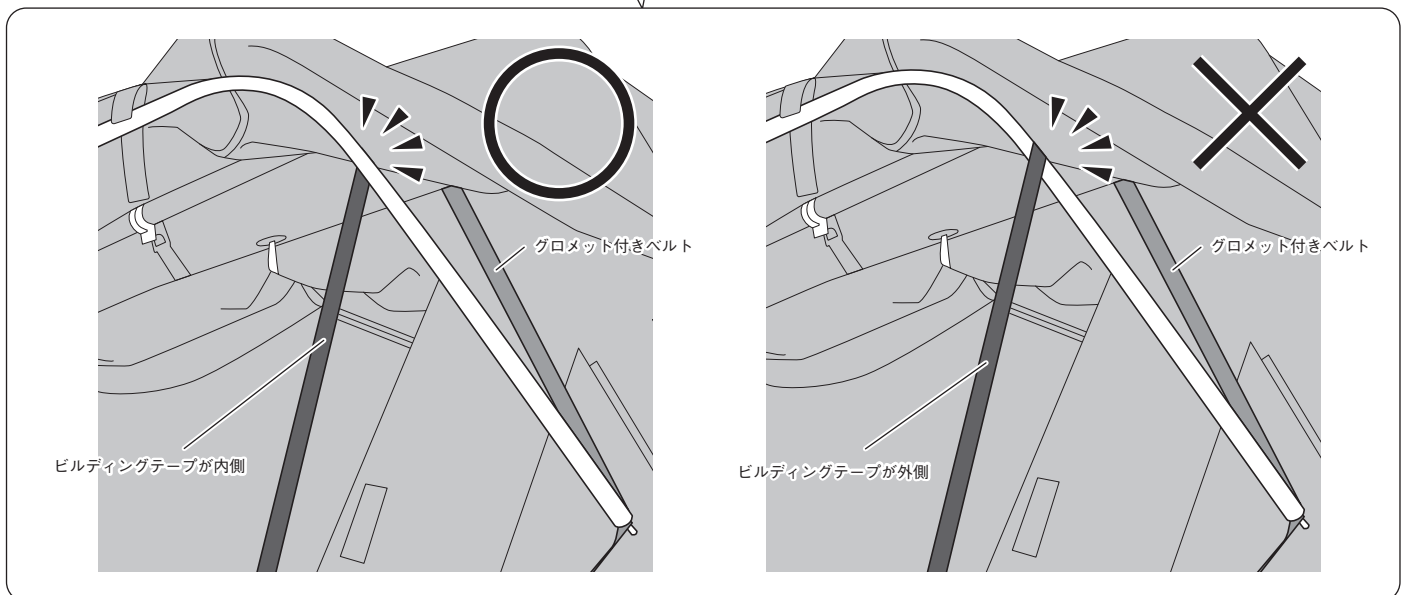
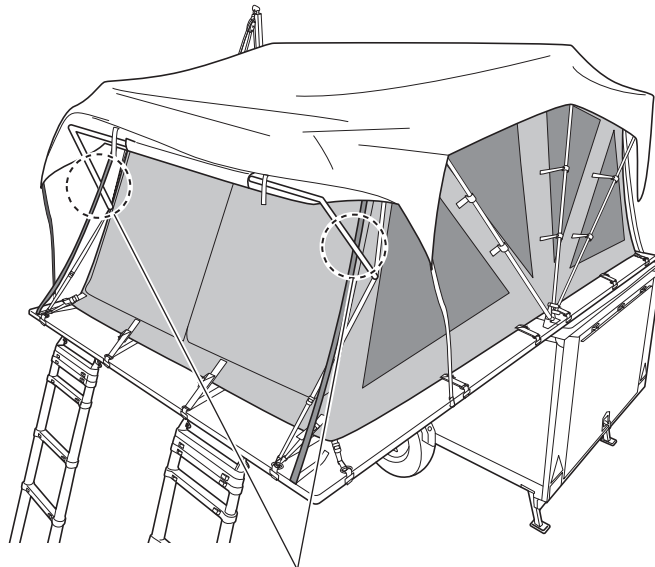
⑤ バイザーフレームを取り付ける

バイザーフレームを連結スリーブに差し込みます。この時はしごから落ちないように設営補助者は、はしごを支えてください。

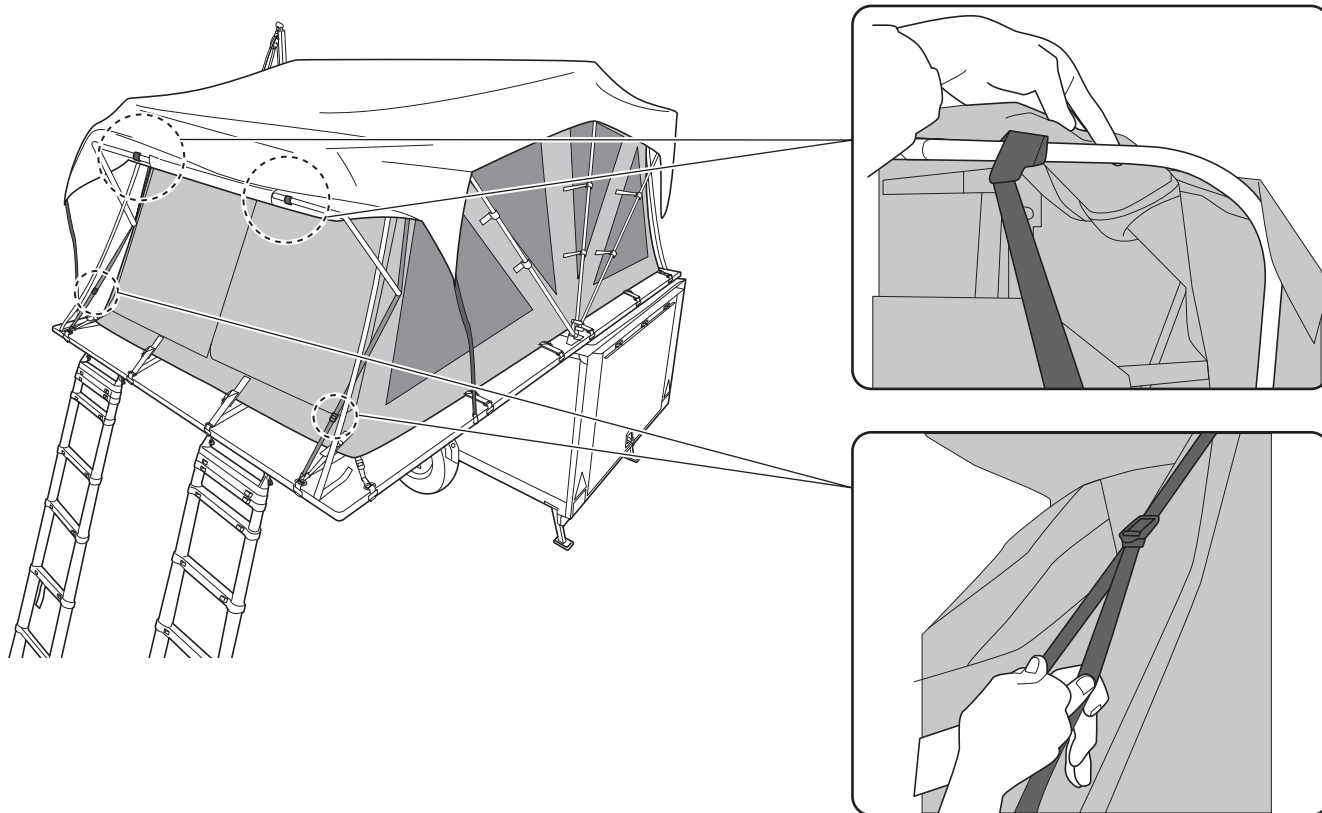
危険 はしごを乗り移っての作業は大変危険です。移動する際は必ず一度はしごを降りてから移動してください。



グロメット付きベルトのグロメットへバイザーフレームの先端を差し込みます。このとき、ビルディングテープがバイザーフレームの内側になるようにしてください。



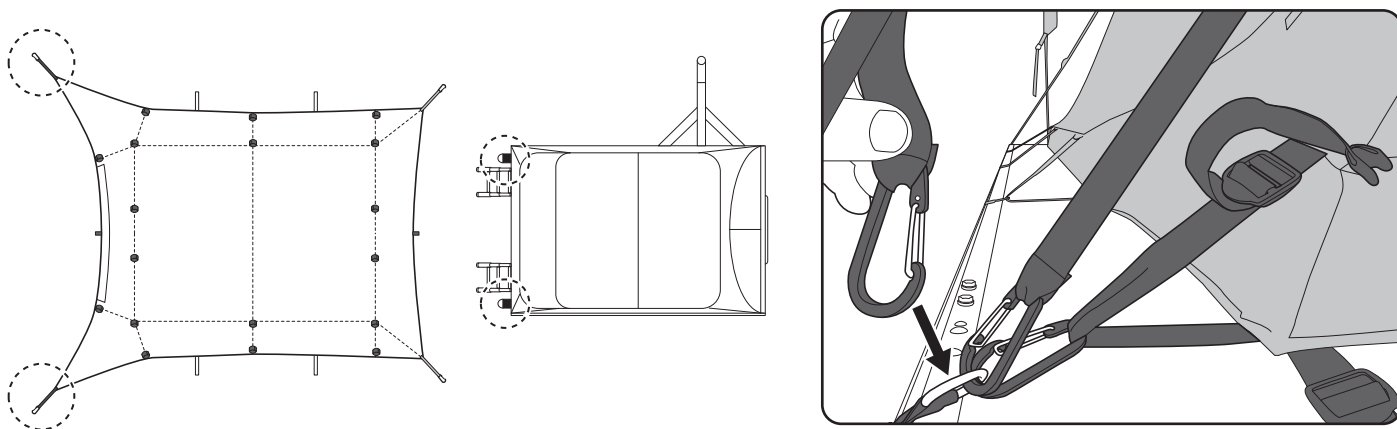
シールドルーフ裏側のベルクロをパイザーフレームに固定し、グロメット付きベルトのアジャスターを引きベルトにテンションを加えます。



⑥ シールドルーフとテントベースを固定する

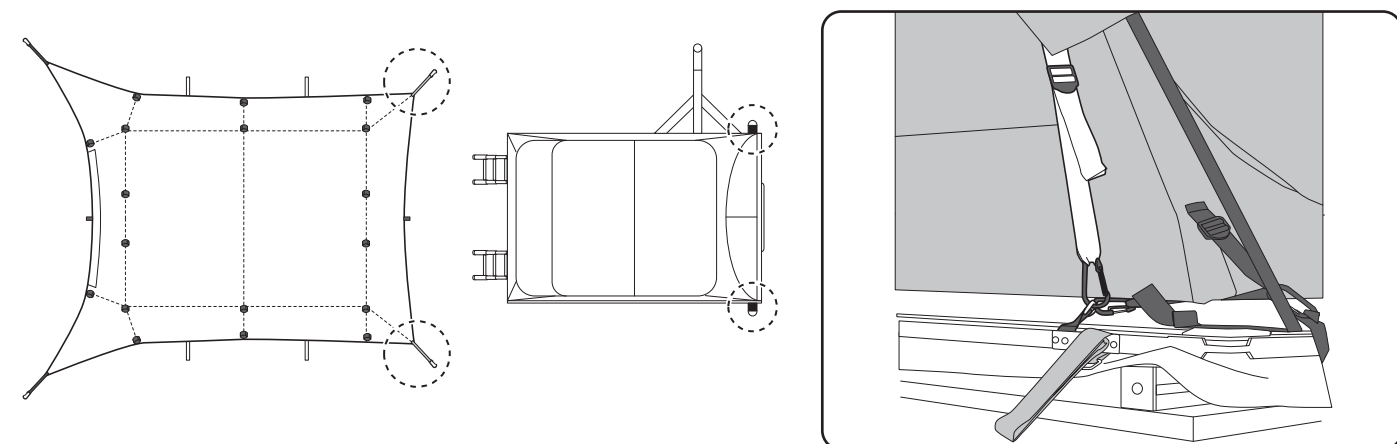
シールドルーフ前方のアジャスター付きベルト先端のカラビナを図の位置のDカンに取り付け、アジャスターを引きテンションを掛けます。

注意 テンションをかけすぎるとテントベースが浮いてしまう場合がございます。ご注意ください。



シールドルーフ後方のアジャスター付きベルト(グレーテープ)先端のカラビナを図の位置のDカンに取り付け、アジャスターを引きテンションを掛けます。

注意 テンションをかけすぎるとテントベースが浮いてしまう場合がございます。ご注意ください。

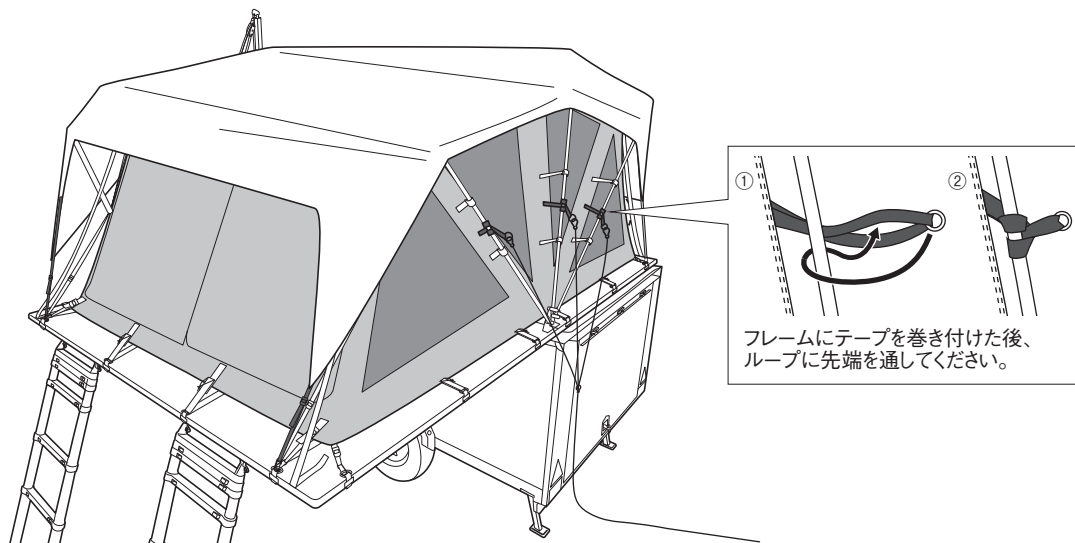


[6]三又ロープの取付

① 三又ロープを取り付ける

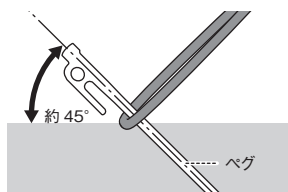
テントの中から手を出しフレームに図のとおりテープを巻き付け、三又ロープの各カラビナをOリングへ取り付けます。

警告 外側に身を乗り出したり、よじ登って作業をすると落下の可能性があります、大変危険です。



② 三又ロープをペグで固定する

※ご使用するペグは、40cm以上の鍛造ペグを推奨します。



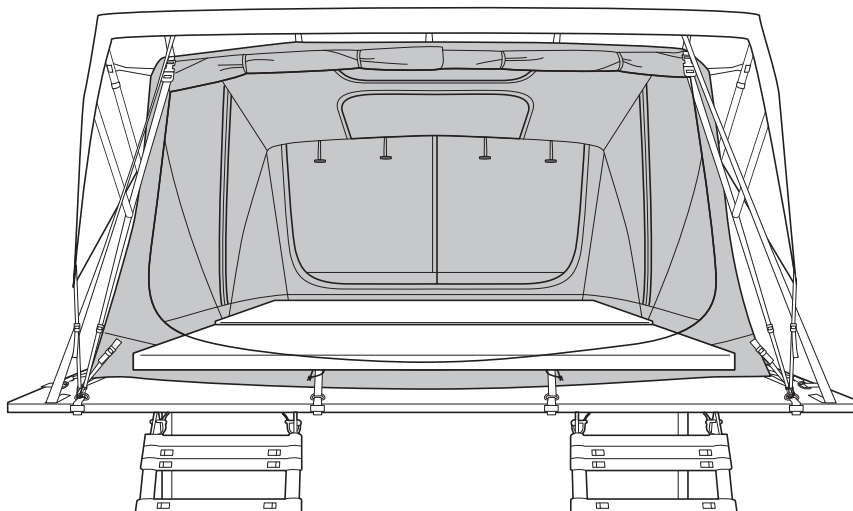
[ループへのペグダウン]

ペグを打ち込む角度は地面に対し約45°になるようにペグダウンしてください。

[7]インナーマットの設置

① インナーマットの設置

インナーマット(×2)をボトムの形状に合わせてテント内に敷きます。



テント設営時のチェックリストを確認してください。(P.44)

[8] 撤収方法

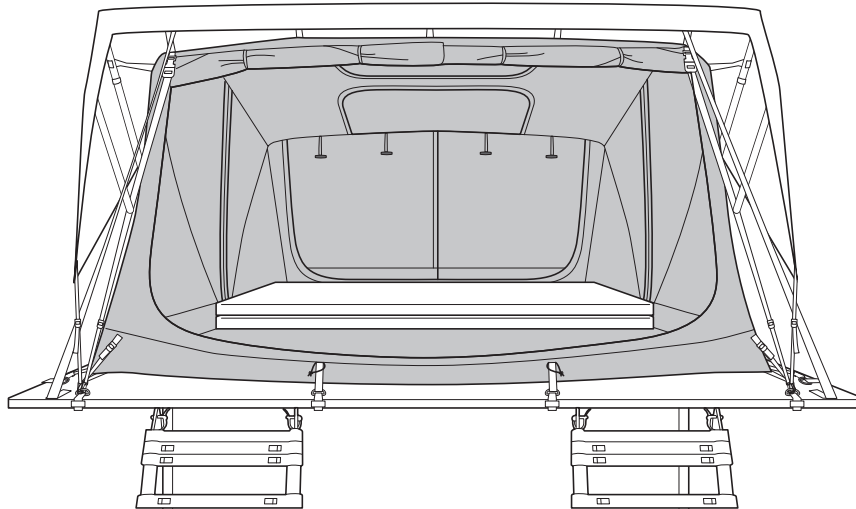
ここからは撤収の手順になります。

テントをフレームから取り外して撤収する際は設営と逆の手順で行ってください。テントをフレームに取り付けたまま撤収する際は下記手順に従ってください。

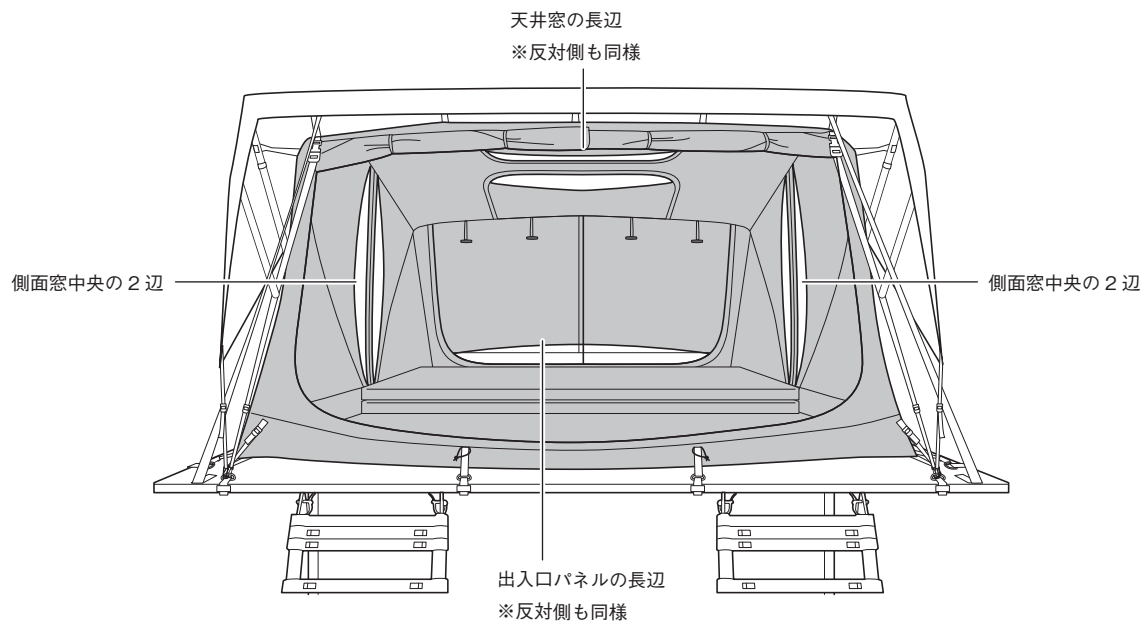
注意 テントが濡れている場合や1か月以上使用予定がない場合はテントを取り外してください。

① テントをたたむ準備

テント前方のインナーマットを後方のインナーマットの上に重ねます。



テントを折りたたむ際に空気の抜けを良くするため、図の箇所のファスナーを開けます。



② 三又ロープを外す

固定しているペグを抜き取り、三又ロープを取り外します。

- 警告** 下記行為は落下や転落のおそれがあり、大変危険です。
- ・メインフレームに乗って作業をしないでください。
 - ・テントベースから外側に身を乗り出して作業をしないでください。

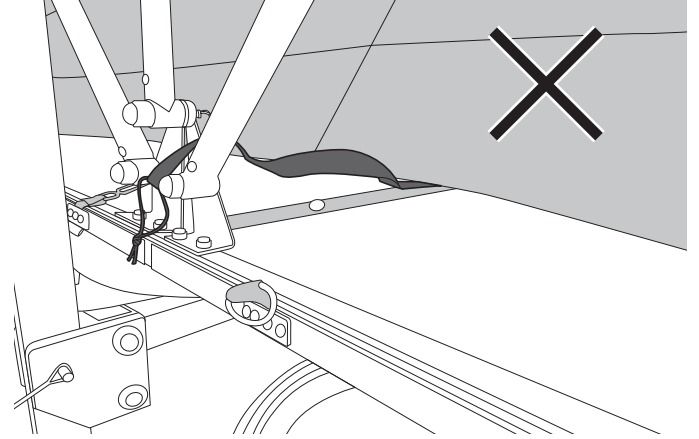
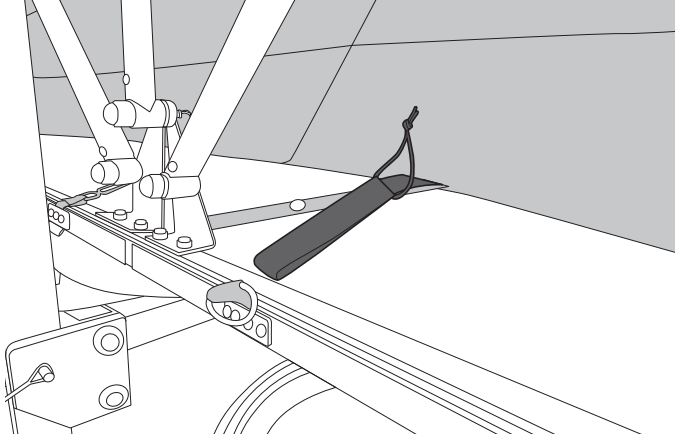
③ テンションをゆるめる

すべてのアジャスターをゆるめます。

④ ベルクロを外す

オレンジ色の紐がついたベルクロを全て外します。外したベルクロは必ず重ねてください。

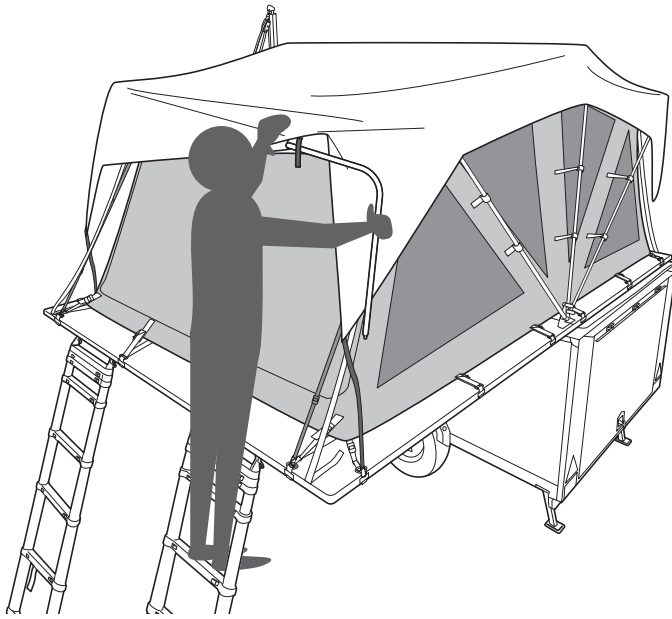
危険 ベルクロを重ねずにいるとテントベースをたたむ際にヒンジ部分に引っ掛かり製品が破損するおそれがあります。



⑤ バイザーフレームを外す

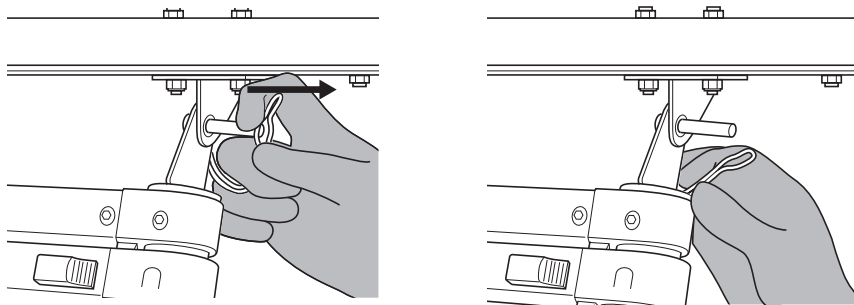
バイザーフレームを外します。この時はしごから落ちないように設営補助者は、はしごを支えてください。

危険 はしごをわたっての作業は大変危険です。移動する際は必ず一度はしごを降りてから移動してください。



⑥ はしごを外す

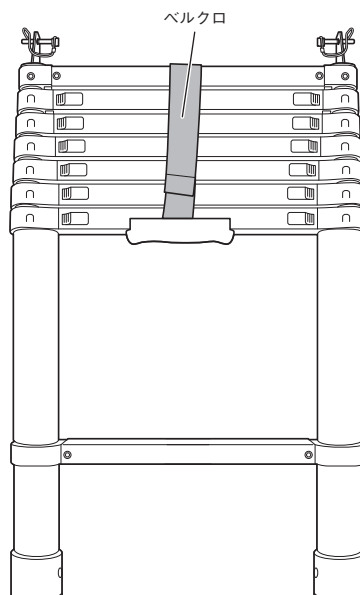
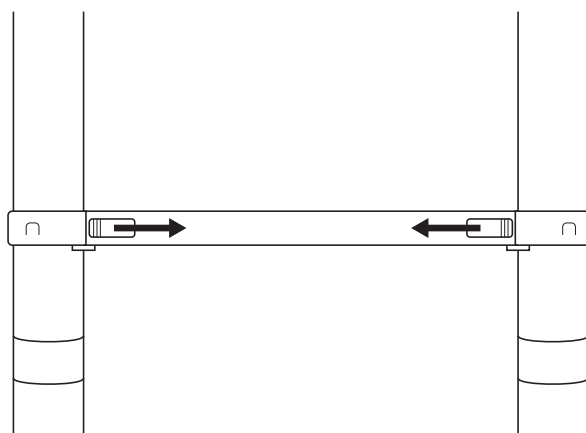
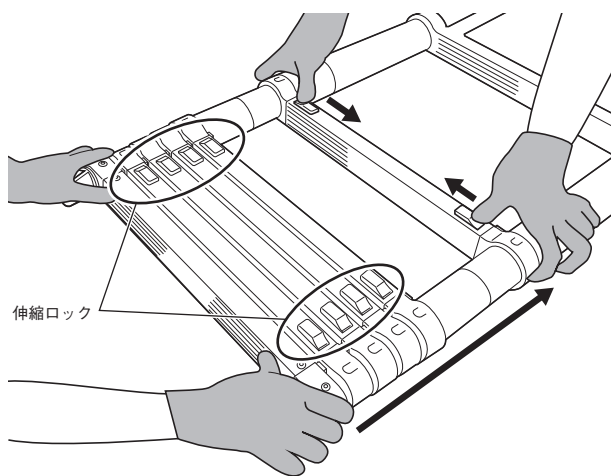
はしごを固定しているベグを抜き取り、はしご先端についているはしご固定ピンを取り外します。
取り外したはしご固定ピンは紛失しないようにはしごの先端に付けなおしてください。



⑥ はしごを縮める

はしごを地面と平行にして、1人は最下段を持ちます。
もう一人が上の段から順に伸縮ロックを両手で内側にスライドし、1段ずつ上から順に縮めていきます。(×2台)
運搬時にははしごが伸縮しないように下から2段目に付属しているベルクロで固定してください。(×2台)

注意 縮める際はステップの間などに指を挟まないように気付けてください。



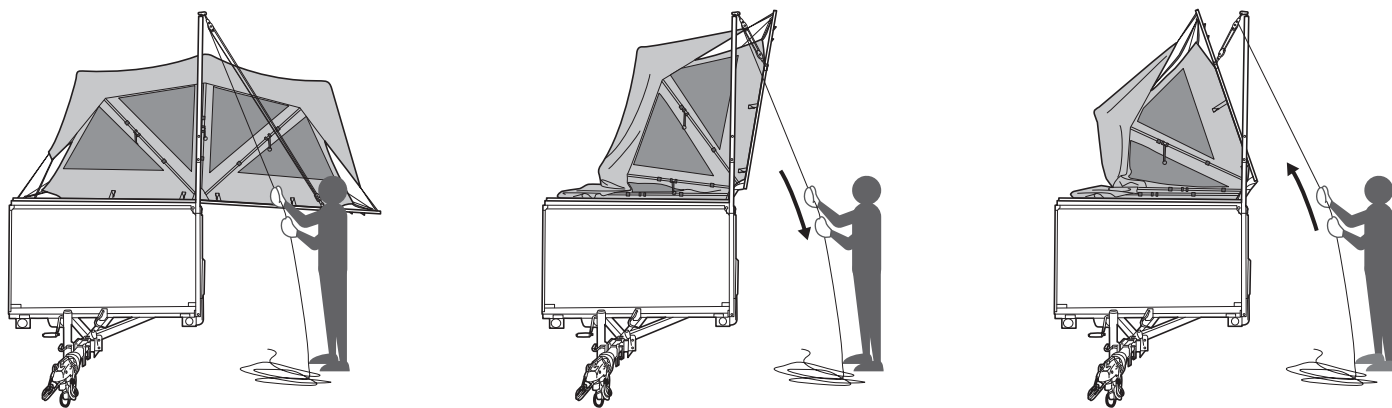
⑦ はしごを収納する

トレーラー内のはしご置きに差し込み固定してください。

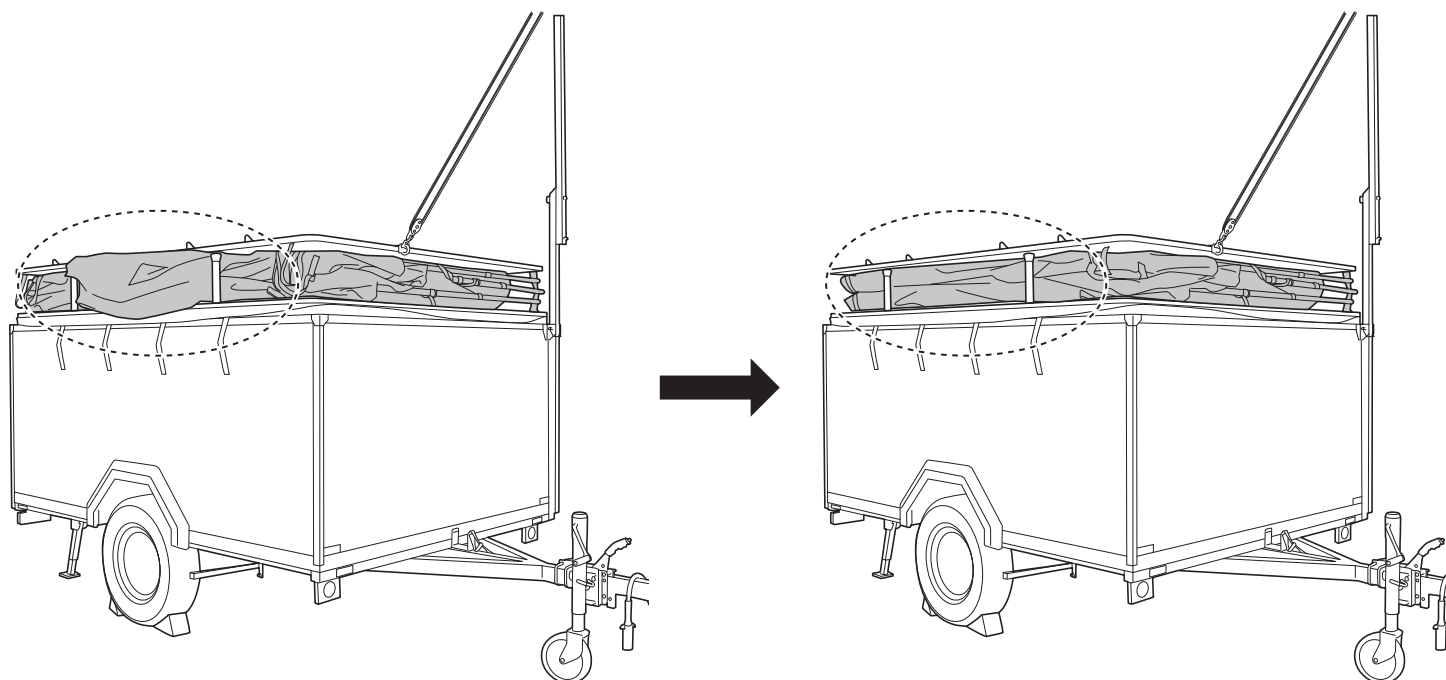
⑧ テントベースの収納

ゆっくりとロープを引きながら、テントベースをたたみます。

注意 作業用手袋を装着しゆっくりと注意しながら折りたたんでください。



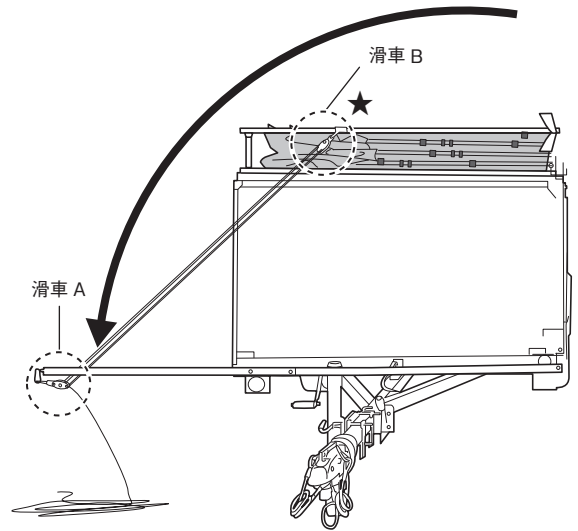
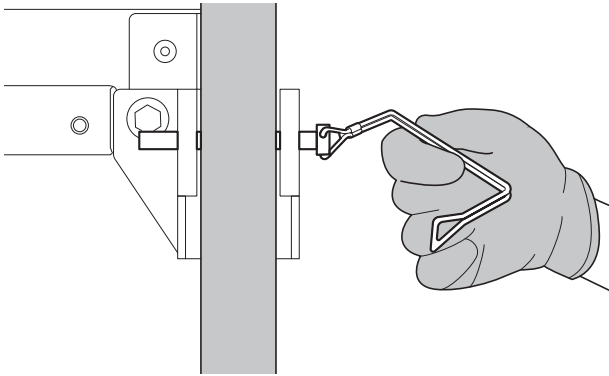
テントベースからはみ出た生地を内側に押し込みます。



⑨ 柱を折りたたむ

トレーラーと柱を固定しているピンを外し、柱を下ろします。テントベース★部分の滑車Bを取り外します。滑車A-Bが接触するまでロープを引き、滑車Aを取り外します。

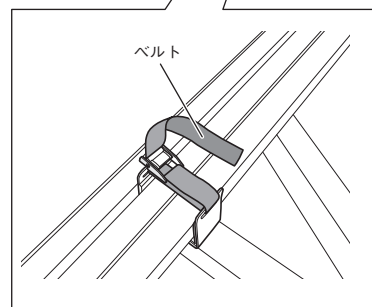
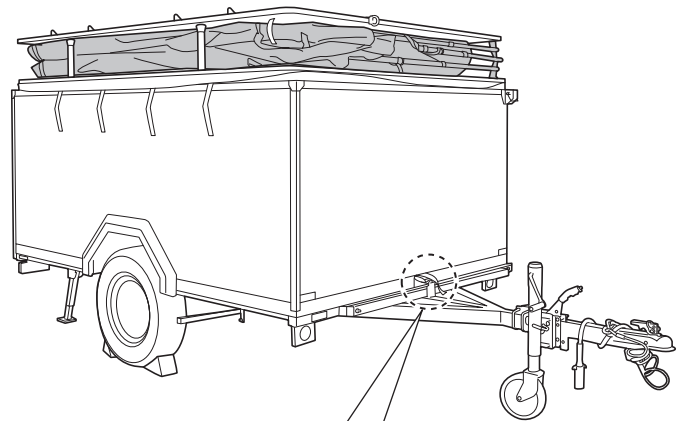
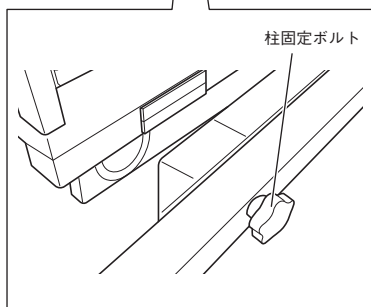
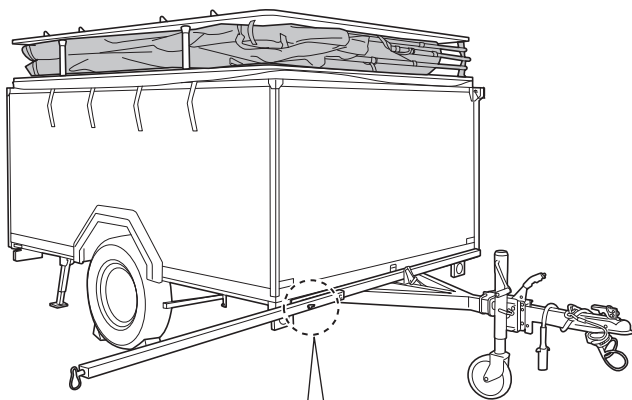
- 注意**
- ・柱が倒れてこないようもう一人がしっかりと支えながらピンを取り外してください。
 - ・柱を倒す際に指を挟まないように注意してください。
 - ・滑車A-滑車B間の距離を縮めないまま、ロープをまとめると、次回の使用時にロープが絡まり、最悪テントベースが開かなくなったり、不完全な状態でテントベースが開きテントベースの破損等思わぬ事故につながるおそれがあります。



柱固定ボルトを取り外して柱を折りたたみ、柱をベルトで固定します。

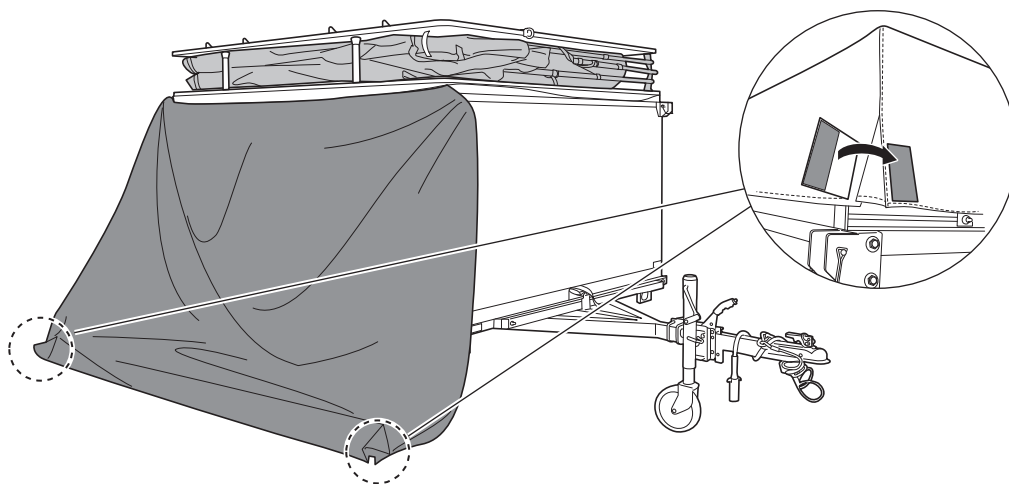
警告 外した柱固定ボルトは、折りたたんだ柱に固定しないでください。走行中に落下するおそれがあり、危険です。

注意 滑車つきロープと一緒に保管し、次回のご使用時に紛失しないようにご注意ください。



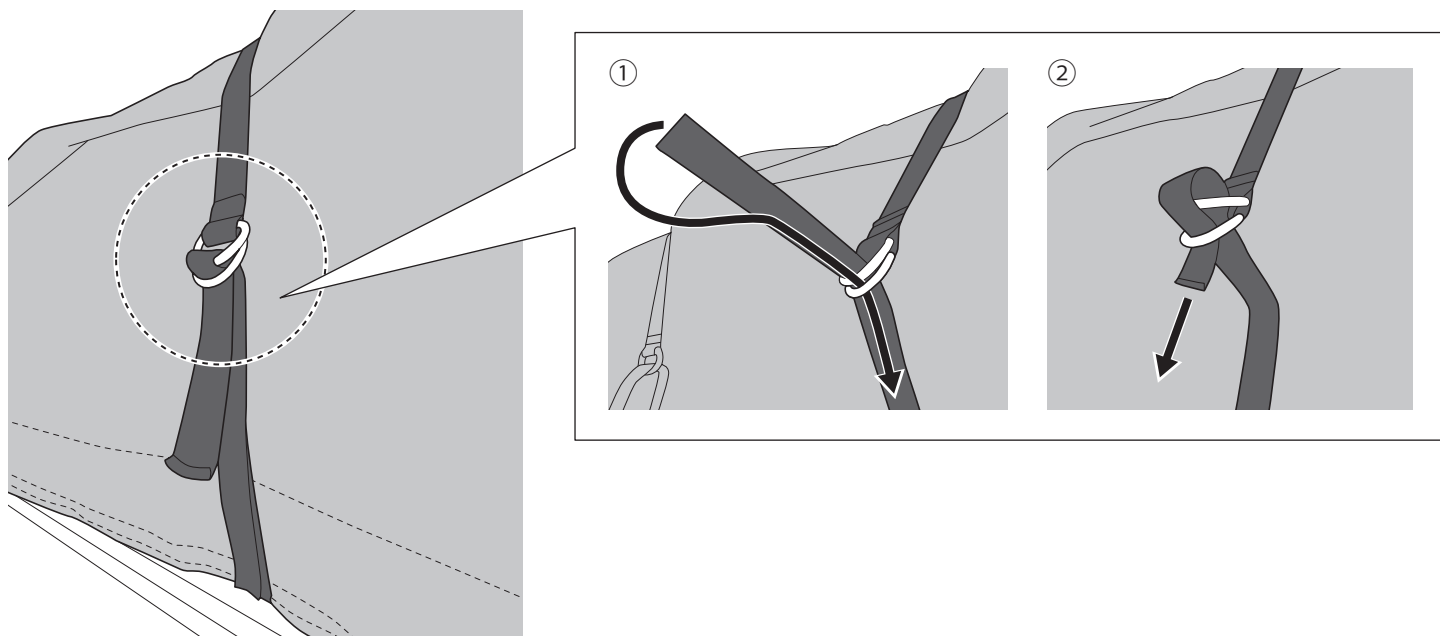
⑩ テントカバーを被せる

テントカバーを裏側にしてトレーラー長辺側(角のベルクロが無い方)のベルクロでテントカバーをトレーラーに固定します。
テントカバーを本体部全体に覆いかぶせ、トレーラーの全周をベルクロでしっかりと固定します。



コンプレッションベルト先端のDカンを図の通りベルクロで固定してください。

警告 正しく固定できていない場合、走行時にコンプレッションベルトが外れ、事故が発生するおそれがあります。



撤収時チェックリストを確認してください。(P.44)

◆ メンテナンス方法

トレーラー

■ メンテナンス・保管

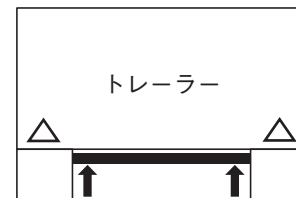
- 長期間ご使用しなかった製品を再度お使いになる際は、製品および内容物をよく点検してください。不明な点がありましたら弊社ユーザーサービスまでご連絡ください。
- トレーラーに付いた泥・汚れを水洗いした後、乾いた布でよくふき取り、後項で示す給油・グリスアップを行ってください。
- トレーラー内に荷物などを長期保管しないでください。下記事象が発生するおそれがあります。
 - ・内部は高温多湿の環境下になりますので、中に収納したものがサビたりカビが発生する可能性があります。
なお積載状態での保管による不具合の発生につきましては保証の範囲より除外させていただきます。
 - ・タイヤの劣化の進行が早まったり、フレームの変形等の不具合が生じるおそれがあります。
- トレーラー内部が濡れたまま保管しないでください。サビやカビ等が発生するおそれがあります。
- 各取り付け部のボルトナットのゆるみがないか点検を行ってください。タイヤホイールは指定トルクになっているか確認してください。
- 各可動部に泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使いつねに清潔にしてください。
- サビの発生しやすい部分には防錆剤等を吹き付けてください。(特に締め直したボルト・ナット等)
- 灯火類は電球切れがないことを確認してください。レンズの部分を柔らかい布で拭いてください。
- 長期保管する場合は屋根のある車庫や別売りの保管用カバー等で保護保管してください。
- はしご固定ベルトのベルトが切れたり、すり減ったり、著しく毛羽だつてないか。バックルが破損していないか。左記の場合、絶対に使わないでください。新しいはしご固定ベルトと交換してください。
- 次回の使用に備え、上記の通り十分に保守、点検をしてください。

■ パンクのタイヤ交換

ご自身でパンク修理が困難な場合は、認証工場等に持ち込んで修理を依頼してください。

1. 地盤のしっかりした傾斜のない平坦な地面でけん引車両に取り付けた状態で行ってください。
2. 交換するタイヤホイールのホイールのナットをゆるめ、ジャッキポイントにジャッキを当てて、タイヤを持ち上げてください。※タイヤの交換作業は片側ずつ行ってください。反対側のタイヤに輪留めは不要です。
3. ホイールナットを取り外し、タイヤを交換する。

警告 タイヤおよびホイールは適合するものをご使用ください。
ホイールを取り付けるときはナットの油脂分を除去し、グリース、油等は絶対に塗らないでください。
ホイールナットに油脂分がついた状態で締め付けを行うと、締めすぎてホイールが変形しナットがゆるみ、重大な事故につながります。



※ジャッキアップは片側ずつ行ってください。

■ 灯火類の交換

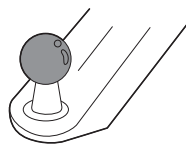
灯火レンズの破損、電球が切れた場合のレンズ及び電球の交換については認証工場に依頼してください。

注意 レンズに割れ、ひび等の損傷があると防水機能が働かないため、レンズ内に水が入りショートしてしまいますので、割れ、ひび等の損傷がある場合は、交換してください。

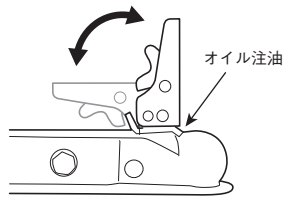
■ 定期的なグリースアップ

トラブルを未然に防ぐため、定期的の下記部位について汚れをふき取り潤滑剤をつけてください。

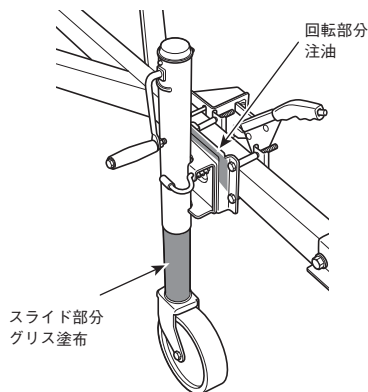
注意 モリブデン系グリースは絶対に使用しないでください。洗剤およびベンジン系の薬液、グリース以外の油分は絶対に混入させないでください。グリースを溶解し性能を低下させるおそれがあります。



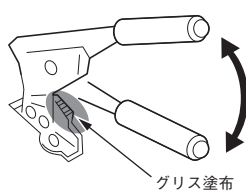
1. ヒッチボール



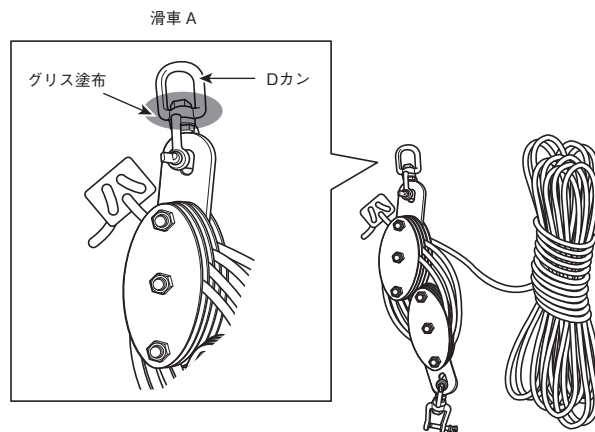
2. カプラーのロックレバー



3. ジャッキ



4. サイドブレーキ



5. 滑車つきロープ

グリースアップ	オイル
ヒッチボール	カプラーのロックレバー
ジャッキのスライド部	ジャッキの回転
	サイドブレーキ
	滑車AのDカンの摺動部
	ハッチのドアノブ

テント

■ 撤収・収納時の注意事項

- 十分に乾燥してから収納してください。
- 強風時は、風がおさまるのを待ってから撤収してください。
- 必ずテント本体と指定されたもの以外が入っていないことを確認し、併用していた製品を本体から取りはずしてから撤収をはじめてください。
- テントの中にインナーマット以外何も入っていないこと、撤収する際に指定されたファスナー以外が閉まっていることを確認してから撤収をはじめてください。
- スリーブからフレームを取り出す際は、必ず押して取り出してください。※フレームを引いて取り出すと、スリーブの中で連結部が外れ生地を痛めることがあります。
- フレームは必ず毎回中央付近から折りたたんでください。端から折りたたむとフレーム内部のショックコードの伸びや切れ、フレームの曲がりや折れの原因になります。
- ペグはすべて抜き、汚れを落としてお客様がお持ちのペグケースに収納してください。バイザーフレームはフレームケースに収納してください。むき出しの状態での収納すると、本体生地やキャリーバッグ等を痛めることがあります。

■ 結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。

特にテントやシェルター等の限られた空間では、中にいる人間の水分が呼吸や汗などにより空気中に放出され水蒸気となり、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。

結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のため、こまめに適時換気を行ってください。

■ 撥水・防水性能について

- 本体の生地には撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、テントベースの水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農業などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証ができなくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

■ 紫外線の影響について

- 本体の生地にはUVカット加工を施しています。※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。
- テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起しますので、常設用として使用しないでください。
- 紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合いを超えたものは弊社でも修理できない場合があります。

■ メンテナンス・保管

- 長期間ご使用しなかった製品を再度お使いになる際は、製品および内容物をよく点検してください。不明な点がありましたら弊社ユーザーサービスまでご連絡ください。
 - 本製品はポリエステル生地を組み合わせで使用しています。
生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。
ご了承ください。
 - 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
 - フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食し、強度が低下します。
ジョイント部分はつねに清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、フレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
 - フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。
 - 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
 - ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使いつねに清潔にしてください。
また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
 - 小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。
 - ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。
 - シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたいが剥離してしまう場合があります。
剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。
熱を掛け過ぎた場合、生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。
PUコーティングが一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
 - 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
 - はしごの汚れは、滑り止め部位も忘れずに、濡れぞうきんなどできれいに拭き取ってください。
 - はしごの汚れが著しい場合は、水洗いした後、乾いた布で拭いてください。
- 注意** クリーナーや洗剤を付けたままにしていますと腐食の原因になります。本製品が濡れているときは、十分に乾燥させてから保管してください。保管中は指定の位置に戻してください。
- 次回の使用に備え、上記の通り十分に保守、点検をしてください。

品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期していますが、万一不備な点がございましたら、弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適切な価格で修理させていただきます。修理、交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合には修理できない場合がありますので予めご了承ください。

1. 素材の経年劣化による損害など商品の寿命
2. 改造および粗雑な取扱いによる故障
3. 取扱説明書で禁止されている取扱いによる故障
4. 不測の事故による商品の故障
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障
6. ゴミやサビによる故障
7. 分解したことによる不具合の発生または破損
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合
9. 摩擦によるパーツの変化およびそれによる故障
10. 他社製品との組み合わせによる故障
11. 不適合品の使用
12. トレーラーを進水・水没させた場合（電気系統・コネクタ類・ブレーキ類・車輪軸類等）
13. 地震・台風・水害等の天災または火災による損傷等
14. 使用限度を超える使用をした場合（過積載・速度超過・各法律違反による使用）
15. けん引車両の故障による破損
16. 車検のないトレーラーを使用した場合
17. 保守・整備の不備または所定の整備を行わなかった場合
18. トレーラーによるけん引車両の破損
19. 本製品が原因で生じた付随的障害（けん引車両のエンジントラブル、その他事故）やけん引車両が使用できなかったことによる損失
20. 通常の注意で発見・処理できたにも関わらず、放置したことにより拡大した不具合および故障

修理について

修理が必要な場合は弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

■ 設営不可リスト

- ベグダウン出来ない場所
- やわらかい地面で、はしごが安定しない場所
- 段差があったり、凹凸があって安定しない場所
- ガタつく場所
- 傾斜している地面
- 積雪や凍結している場所
- その他、安定しない場所
- 滑りやすい濡れた場所
- 砂・ゴミ・ほこり・落葉などで滑りやすい場所
- その他、滑りやすい場所

チェックリスト

危険 トレーラーをけん引して走行する前にはトレーラー各部のボルト・ナットに緩みがないか、各溶接部の亀裂等異常がないか確認してください。

警告 下記事項について、走行前後、設営前後に必ず点検・確認を実施してください。点検結果に異常がある場合は整備を行ってください。

注意 点検作業は傾斜のない平坦な場所で作業を行ってください。

■ 走行前チェックリスト

点灯点滅の点検	
<input checked="" type="checkbox"/>	けん引車両のエンジンをかけ、すべての点灯・点滅がトレーラーと連動しているか。点検は鏡や他の人に見てもらう等して行ってください。 注意 作業の安全を確保するためにけん引車両とトレーラーのサイドブレーキ、輪留めを使用してください。
タイヤホイールの点検	
<input checked="" type="checkbox"/>	タイヤ・ホイールにキズ・亀裂・変形・偏摩耗などがなく、タイヤ残溝が規定値(1.6mm)以上あるか。
<input checked="" type="checkbox"/>	タイヤの空気圧は適切か。 空気圧は最大積載時2.5kg/cm ² を基準に左右均等に調整してください。 警告 空気圧が低いまま走行するとタイヤがバースト(破裂)し重大な事故につながるおそれがあります。
<input checked="" type="checkbox"/>	揺すってガタつきやホイールナットのゆるみがないか。締付トルクは9~12 (約90~120N・m)です。
けん引車両との連結の点検	
<input checked="" type="checkbox"/>	ヒッチボールとカプラーの連結部が正しく確実に取り付けられているか。上下に強く揺すりガタつきはないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	スタビライザーが折りたたまれ、ロックがかかっているか。(2か所)
<input checked="" type="checkbox"/>	倒したロックレバーにセーフティーピンを固定したか。
<input checked="" type="checkbox"/>	セーフティーワイヤーのフックは正しく取り付け、セーフティーワイヤーは絡まっていないか。(2か所)
<input checked="" type="checkbox"/>	トレーラーの電極プラグとけん引車両の電極ソケットが正しく接続されているか。絡まったりボールマウントの上を通っていないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	トレーラーのサイドブレーキに異常がないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	トレーラーのサイドブレーキを解除しているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	トレーラージャッキは90度回転し地面と平行になっているか。ジャッキロックがかかっているか。
積載	
<input checked="" type="checkbox"/>	ガス缶などの可燃物や電子機器を積載していないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	積載物の前後左右のバランスに注意し、積載物の重心がトレーラーのタイヤの中心より少し前になるように積載しているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	最大積載量(200kg)以内か。 危険 最大積載量以内でもトレーラーのハッチが閉まらないサイズのは積載しないでください。大変危険です。
<input checked="" type="checkbox"/>	ハッチはロックをかけているか。(ロックがかかっていると積載物が落下するおそれがあります。)

その他	
<input checked="" type="checkbox"/>	テントカバーのコンプレッションベルトや4辺のベルクロがとめられているか、正しく固定されているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	けん引車両の前進・後退等操作方法は理解、感覚はつかめているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	天候・体調は万全か。優れない場合は今回のご使用はお控えください。

■ テント設営時チェックリスト

テント	
<input checked="" type="checkbox"/>	けん引車両と連結していない場合は、下記内容を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • サイドブレーキを引いているか。 • 輪留めを入れているか。 • ジャッキを下ろしているか。 • スタビライザーが地面にしっかりと着地しているか。浮いていないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ロープにテンションが掛かっているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	柱固定ボルト・ピンなどがゆるみなく取り付けられているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	指定されたベグ(長さ 40cm以上の鍛造ベグ)でベグダウンされているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	各部の接合部に割れや著しい腐食がないか。また、取り付け部品の破損・脱落・変形・摩耗・著しい腐食がないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	強い風を受けない場所か。
はしご	
<input checked="" type="checkbox"/>	ステップに油・泥・雪・水・落葉など、滑りやすいものが付いていないか。付いている場合はきれいに拭き取ってください。
<input checked="" type="checkbox"/>	はしご全体にが曲がり・ねじれ・へこみがないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	各ステップは左右のロックがかかっているか。全てのステップを1段ずつ手で荷重をかけ確認してください。 警告 確実にロックができない場合は絶対に使用しないでください。
<input checked="" type="checkbox"/>	はしごの取り付け方法および角度は適切か。P.22を参照してください。
<input checked="" type="checkbox"/>	はしご固定ベルトのベルトが切れたり、すり減ったり、著しく毛羽だつてないか。バックルが破損していないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	はしご固定ベルトは正しい位置に通しているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	テントベースの指定位置に荷重をかけたときにテントベースが上下に動かないか。P.23を参照してください。
<input checked="" type="checkbox"/>	テントベースは水平か。テントベース同士がきちんと噛み合っているか。

■ 撤収時チェックリスト

<input checked="" type="checkbox"/>	テントのファスナーは必要な箇所全て開けているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	パイザーフレームは取り外したか。
<input checked="" type="checkbox"/>	テントの指示されたアジャスターをゆるめたか。オレンジ色の紐がついたベルクロを外し重ね合わせたか。

■ 走行後チェックリスト

<input checked="" type="checkbox"/>	トレーラーのタイヤに異常やダメージがないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	メンテナンス方法に基づきメンテナンスを行ったか。
<input checked="" type="checkbox"/>	落下物など紛失物がないか。

点検整備基準

点検整備は使用者の義務です。けん引車両(自家用車)の点検整備を実施してください。

製品保証は保守点検整備の実施が前提となりますので、お客様の責任・費用にて下記に示す保守点検整備の実施をお願いいたします。

- 走行前点検及び走行時、テント設営時、撤収時、走行後の点検
- 取扱説明書に記載してあるお客様定期点検
- 消耗品の交換及び給油(ランプ、サスペンション、オイルシール、油脂、ベアリング、タイヤ等)
- サイドブレーキの点検・整備
- ヒッチボール及びカップラー、ジャッキ、スタビライザーの機能点検・整備
- はしご、柱、滑車の機能点検・整備
- 法定点検(定期点検)
※認証工場または指定工場にて実施

■ 日常点検

走行前には必ず点検整備を実施してください。また、走行距離や走行状態などから判断し、適切な時期に点検・メンテナンスを行ってください。異常個所を発見したら速やかに整備を行う必要があります。

- トレーラーのメンテナンス(P.40~41)
- 走行前チェックリスト (P.43~44)

■ 定期点検整備

定期点検整備の時期になりましたら、下記の点検整備を実施してください。

- お客様定期点検表に記載されている点検項目をお客様ご自身で実施してください。
 - お客様定期点検表に記載された点検項目は、一般的な走行での日常のメンテナンスが普通に行われた場合を標準としております。
- ※点検整備は、標準の使用条件におけるものです。
- 認証工場または指定工場にて法定点検(定期点検)を実施してください。
 - 認証工場または指定工場にて法定点検(定期点検)を実施されましたら記録簿を受け取りお客様で大切に保管してください。

お客様定期点検表

点検した年月日と確認した結果を記載しておいてください。

定期点検整備項目	納車		6か月ごと		6か月ごと		6か月ごと	
	年/月/日	確認	年/月/日	確認	年/月/日	確認	年/月/日	確認
定期点検整備実施日								
制動装置								
サイドブレーキの引き代								
タイヤの空気圧(2.5kg/cm ²)								
タイヤの亀裂及び損傷								
タイヤ残溝が規定値(1.6mm)以上あるか。異常な 摩耗がないか。								
ホイールナットのゆるみがないか。 締付トルク9～12(約90～120N・m)								
タイヤに金属片、その他異物が刺さっていないか。								
灯火装置の作用								
灯火装置の汚れ及び損傷								
方向指示器の作用								
反射器及び自動車登録番号標または車両番号の 汚れ及び損傷、取付状態								
トレラー枠及び車体のゆるみ及び損傷								
トレラー、テントベースの状態								
その他の一般								
前回の走行において異常が認められた箇所が ないか確認及び点検								
セーフティワイヤー及びヒッチボール・ カプラーの調整・損傷の確認								
柱の変形、損傷								
カプラー裏側の調整ナットのゆるみがないか。								
はしごの損傷、変形、正常にロックするか。								
ジャッキヤスタビライザーの損傷、正常にロック するか。								

スペック

- セット内容：トレーラー本体、テント本体、シールドルーフ、バイザーフレーム、テントキャリアバッグ、滑車付きロープ、はしご（×2）、はしご固定ベルト（×2）、輪留め（×2）、シューズケース（×2）、インナーマット（×2）、グロメット付きベルト（×2）、柱固定ボルト、サイドドアの鍵（×2）、ハッチの鍵（×2）、フレームケース、三又ロープ（×2）
- 材質：トレーラー
アルミニウム合金、スチール、樹脂
- 材質：テント
本体／210D ポリエステルリップストップ、PU コーティング耐水圧 1,500mm ミニマム | シールドルーフ／210D シリコンポリエステルリップストップ、遮光ピグメント PU コーティング耐水圧 1,500mm ミニマム | フレーム／アルミニウム合金 | インナーマット／ポリエステル（表生地）、ポリウレタン（中芯）
- 荷室空間サイズ：172（最大）・128（最小）×238×99（h）cm
- 製品サイズ（走行時）：380×186×183（h）cm
- 本体重量：530kg
- 最大積載量：200kg
- テントベースの耐荷重：テントベース片側 150kg 以下、合計 300kg
- 種別：普通貨物自動車
- 用途：多目的トレーラー
- 車検：初回／登録日から 2 年、2 回目以降／毎年
- 対応人数：4 名
- 標準タイヤ
サイズ：185R14C
空気圧：2.5kg/cm²
- 標準ホイール
サイズ：5.5J×14
P.C.D：114.3
オフセット：0
穴数：5 穴
ボルト：M10 ボルト 1.5 使用
- ホイールナット締め付けトルク：9～12（約 90～120N・m）

不明な点やお気付きの点がございましたら弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピーク  **0120-010-660** (9:00~17:00)
ユーザーサービス Email:userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456
Tel. 0256-46-5858 / Fax. 0256-46-5860
www.snowpeak.co.jp

MADE IN CHINA